當時ぽるとがる人カ我邦ニ傳ヘシモノヽ内最モ新奇ナリシハ基督教ニシテ其思想ハ到底在來ノ言葉ヲ以テ表ハス能ハス中ニハ佛教ノ語ヲ用ヒタルモアレトモ多クハぽるとがる語又ハらてん語ニ多少ノ變化ヲ加ヘ日本人ノ發音ニ便ニシタルモノヲ用ヒタリ此時代ニ飜譯シタル宗教書類ニハ尠カラス此種ノ言葉ヲ認ムルカ就中最モ通常用ヒラルヽモノ三四ヲ左ニ掲クヘシ

デウス　又天主、天有主、大宇須、傳宇須ト書ケリ、原語 Deus てうす、神、

キリスト　又キリ人、切子人、貴理師度トモ書ケリ、原語 Christo くりすと、基督

キリシタン　又切志丹、吉利支丹、鬼理支丹トモ書ケリ、原語 Christão くりすたん、基督教徒

バテレン　モト伴てれ、伴天連等書キテばどれト讀マセシヲ誤リテばてれんト讀ムニ至リシナリ、原語 Padre ばどれ、教父

イルマン　又伊留滿ト書ケリ　原語 irmão いるまん、教ノ兄弟

パライソ　又波羅夷曾ト書ケリ　原語 Paraiso ばらいそ、天堂

インベル野　原語 Inferno いんふぇるの、地獄

又、ぽるとがる人ハいんどノ東海岸ノさんどめー(São Thome)ヨリ棧留縞、同べんがら(Bengala)ヨリ辨柄縞、同西海岸ノちやうる(Chaul)ヨリ茶宇縞、ぺるしやヨリはるしや革、いんどヨリ印傳革、まかおヨリ天川珊瑚ヲ輸入シ又いすばにや領かなりや諸島ヨリハ金糸雀、南洋ヨリハ食火鳥(カスワル)ノ如キ珍奇ナル鳥ヲ持渡リシコトハ其名ニヨリテ徴スヘシ此外モトぽるとがる語ニシテ今ハ全ク邦語化シタルモノ尠カラス當時ぽるとがる人ノ輸入セシ商品又ハ我邦ニ傳ヘシ品ナルコト推シテ知ルヘシ左ニ最モ廣ク行ハルヽモノヲ掲クヘシ

原語及讀方

羅紗　Raixa らいしや

金巾　Canequim かねきん

天鵞絨　Velludo べるーど

羅脊板　Raxeita らせいた(羅紗ノ粗惡ナルモノ)

更紗　Saraça さらさ

合羽　Capa かば

輕袗　Calção かるさん(短キばツち樣ノモノ)

襦袢　Gibão じばん

玻璃(ビードロ)　Vidro びーどろ

石鹼（シヤボン） Sabão さばん
糟底羅 Castella かすてら即チいすばにや
ノ菓子ト云ヒシヨリ其名トナレリ
壽星桃（アイメントー） Amendoa あめんどー
歌留多 Carta かるた
太平簫（チヤルメラ） Charmela ちやるめら
釦 Botão ぼたん
莫大小（メリヤス） Meias めいやす 靴足袋ト云フ語ヨリ同様ノ編ミタルモノヽ總稱トナレリ
玻璃瓶（フラスコ） Frasco ふらすこ
麵包 Pão ぱん

金米糖 Confeitos こんふえいとす
ボーロ Bolo ぼろ
浮石糖（カルメル） Caramelo からめる
糖菓（マルメロ） Marmeló まるめろ
カンテラ Candeia かんでいや
端艇（バッテラ） Bateira ばていら
烟草 Tabaco
南瓜（ボーブラ） Abobora あぼぶら
朱欒（ザボン） Zamboa さんぼあ
丁列綿油（テレメンテーナ） There binthina てれびんちーな
乍合（ヘイサツメサツ） Pedra bezuar ぺどら、べぞある

外國交通盛ニシテ外國語漸ク廣ク行ハレタルニ連レテ羅馬字ノ印形ヲ用ヒシ者アリソノ今日ニ傳ハレルモノヲ擧クレハ
大友宗麟 ハ其敎名ふらんしすこナルヨリ FRCO. ト刻ミタル印ヲ用ヒ

黑田如水 ハしめおん如水(Simeon Josui)
細川忠興 ハ Tadauoqui ノ印ヲ用ヒタリ、
又花押ニ羅馬字ヲ入レテ書セシモノモアリシカ多クハ泰西ノ文明ニ心醉シ基督敎ヲ信奉スル徒ノ所爲ナリキ、
ぱるとがる交通ノ結果ハ我カ衣食住ノ上ニ改良進歩ヲ來シ宗敎ニ關スル新思想ヲ輸入シタルノミナラス他ノ方面ニモ亦其影響尠カラサリシカ如シ
醫術 宣敎師中醫術ノ知識アルモノ宣敎ノ傍治療ニ從事シ、諸所ニ病院ヲ設ケテ布敎ノ一助トナセルモノアリ、るいす、あるめいだ(Luis Almeida)ハ其ノ最モ早キモノニシテ、彼ハ始メ商人トシテ日本ニ來リシカ、半途耶蘇會員トナリ、モト少シク醫術ヲ學ヒシカ故ニ諸所ニ於テ治療ヲ爲シ、又其財産ヲ以テ豐後ノ府内即チ今ノ大分町ニ一ノ癩病院ヲ建設セリ、其後長崎、大阪、京都、廣島、江戸等ニモ續々癩病院創設セラレコレ迄人ノ忌避セル者ヲ治療シ、又一方ニハ心ノ慰安ヲ計レリ、此外普通ノ病人ヲ收容スル病院及ヒ老人、孤兒、私生兒等ヲ養育スル所モ設ケラルヽニ生レリ、當時ノ日本ノ醫師ニシテ最モ有名ナル者ノ内ニハ基督敎ヲ信

スルモノ尠ナカラサリキ、此ト同時ニ藥園ヲ伊吹山長崎等ニ設ケコレ迄日本ニ無カリシ藥草ヲ栽培セリ、

軍事　上ニ於テハ種子島ニ於テ小銃ヲ製造セシヲ始メトシ、漸次大砲ノ鑄造ヲモ日本ニ於テスルニ至リ、隨ツテ築城術ニモ亦變化ヲ及ホシ之ニえうろつぱノ影響ヲ受ケタルコト尠カラサリキ、永祿三年松永久秀志貴山城ヲ築キ天正四年織田信長安土城ヲ築クニ當リテ天主閣ヲ設ケ大ニ西洋築城ノ法ヲ摸セシハ顯著ナル事實ナリ、

演劇　ノ起因ニ付テモ亦外國ノ影響尠ナカラサリシカ如シ、歐洲ニ於テモ中世期ニハ書籍ノ數少ク、學問ハ僅少ナル僧侶間ニ局限セラレタレハ、基督教ヲ說クニ當リテモ基督ノ一代記ヲ演劇ニ仕組ミ、僧侶等役者トナリテ之ヲ演セリ、之ヲ稱シテぱつしよん(Passion 基督ノ苦難)劇又ハみすてりー(神秘 Mistery)劇ト稱シ今日ノ歐洲劇モコレヨリ漸次發達シタルモノナリ、我邦ニ於テモ宣教師等基督教ヲ傳フルニ當リ斯ノ如キ芝居ヲ演シタルコトアリ、我邦ノ演劇ノ始メト云ハルヽ阿國歌舞伎ハ基督教傳來ノ後ニ起リシモノニシテ直接ニ宗教劇ヲ摸擬シタルモノニアラスト雖モ、尠カラサル影響ヲ受ケシナラント思ハル、

祭禮　宗教上ノ儀式ニモ歐洲ノ儀式ヲ採用セルモノ尠ナカラス、元來宗教ノ起因ハ人心ノ要求ニアルカ故ニ隨テ宗教思想儀式等ノ相似スルコトモ亦自然ノ勢ナルカ、祇園祭ニ出ツル山鉾ト殆ント同樣ナルモノカ基督教ノ祭禮ニ出ツルハ甚タ不思議ナリト云ハサルヘカラス、此ハ今日ニテハ僅ニいすぱにや、いたりや等ノ一部等ニ存スレトモ、昔ハ天主教國ニハ皆存在シ、基督復活祭即チ三月末ヨリ四月初ニ亘リテ行ハルヽ祭ノ際、基督、まりや又ハ十二門徒ノ像ヲ臺ニ載セテ市中ノ重ナル街々ヲ練リ歩ルケリ、之ヲぷろせつしよん(Procession)ト云フ、日本ニ於テモ長崎ノ如キ基督教ノ盛ナル市ニテハ同シクぷろせつしよんアリシコトハ舊記ニ見エタリ、祇園祭ノ出シ物ハ或ハ之ヲ摸倣シタルニハアラサルカ、

遊戲　ノ內ニモ亦葡人ヨリ習ヒ傳ヘタルモノ尠カラス。歌留多ノ如キハ其一例ニシテ當時とらんぷハ盛ニ行ハレうんすん歌留多ト稱シ日本ニ於テ製造セシモノモアリキ、百人一首ノ歌留多ハ此ノとらんぷヲ應用シタルモノナリ又ぱるとがる及いすぱにやニハぎたら(Guitarra)ト云フ琵琶ニ似タル樂器アリ、琵琶歌

ノ調モ平家琵琶、薩摩琵琶ノ調ニ似タル所アリ薩摩ハ永クいすばにや人ノ來リシ港ナレハ兩者ノ間ニハ何カノ關係アラン、

ばたびやニ於テハばるとがる人驅逐ノ報ヲ得テ日本貿易ヲ獨占シ得ヘシト信シ千六百三十九年十二月十日祝賀式ヲ擧ケタルカ其喜ヒハ少時ニシテ幕府ノ對外警戒ノ餘波ハおらんだ人ニモ及フコトヽナレリ、松平伊豆守島原ヨリノ歸途平戸ニ立寄リおらんだ商館ヲ見タルニ其構造華美ニシテ「茶臼ニ仕候石ヲ石壘ニ仕候事トモ驕ノ至極ト思召候」トテ江戸ニ歸リシ後井上筑後守ヲ特ニ出張セシメ寛永十七年九月二十五日(千六百四十年十一月)新築石藏ノ破壞ヲ命セリ、商館長ハ即座ニ之ヲ諾シ當時入港中ナリシ蘭船ノ乘組員二百人ヲ上陸セシメ又近隣ノモノ二百人許ノ助力ヲ得テ徹夜破壞ニ從事セリ、幕府ハ尙ホ之ニ滿足セス翌年更ニ本館ヲ破壞セシメ四月長崎ニ移リ出島ニ居住シ曩ニ燔るとがる人カ受ケタルト同シ制限ノ下ニ貿易ヲナスコトヲ命シタレハおらんだ人ハ同年五月ヨリ商館ノ移轉ヲナセリ、おらんだ人ノ平戸ニ在リシハ實ニ三十三年ニシテ其間平戸ハ繁盛ヲ極メシカ此時ヨリ同市ハ漸ク衰ヘタリ、おらんだ商館ノ

跡ハ今平戸町ノ東端ニおらんだ井等ノ存スル所ナリ、

ばたびや政府ハおらんだ人カ幕府ノ命令ヲ遵奉シ嘗テ違背シタルコトナキコトヲ陳ヘ、頻リニ舊時ノ如キ制限ナキ貿易ヲ許サス檢束ハ時ト共ニ彌密ナルヲ加ヘタリ、

出島ハ扇ノ地紙ノ形ヲナシ總坪數三千九百坪餘ヲ有スル築地ニシテ一ノ石橋ニヨリテ長崎ト連絡シ橋端ニハ番小屋アリ其側ノ制札ニハ左ノ文字ヲ認メアリキ、

出島町

一、禁制

一、傾城之外女入事

一、高野ひしり之外出家山伏入事

一、諸勸進之者幷乞食入事

一、出島廻り榜示杭之內船乘廻る事　附り橋之下船乘り廻る事

一、斷りなくして阿蘭陀人出島より外へ出る事

右之條々堅可相守之者也

島ノ周圍ハ板塀ヲ以テ圍ミ北方ノ水ニ面シタル所ニ二門アリ、門外數歩ノ海中ニハ十三本ノ棒杭ヲ竝ヘ其頭ニ「從是内ヘ一切不可乘入者也」ノ榜示ヲ掲ケ島トノ交通ヲ嚴禁セリ

島内ニハ館長以下ノ住宅、倉庫、料理場、湯殿、洗濯所、代官出張所、乙名部屋、通詞控所、辻番所等アリ又遊園ノ設アリおらんだ商館員ハ常ニ此内ニ在リ、商船入港ノ節館長上府ノ折、八月一日奉行所ニ出頭スル時及ヒ諏訪明神祭禮ノ日隨員數名トヲ除ク外ハ島外ニ出ツル事ヲ得ス、通辯トシテハ大通詞四人小通詞四人、稽古通詞八人以上アリ、大小通詞ノ中ヨリ各一名ノ年番ヲ選ミ常務ヲ處理セシメ此兩人ハおらんだ人上府ノ時之ト同道シテ途中ノ用ヲ便セリ、稽古通詞ハ多クハ通詞ノ子供ニシテ幼時ヨリ蘭館ニ出入シテおらんだ語ヲ學ヒ成長シテ本通詞トナルモノナリ、又内通詞アリおらんだ人一人毎ニ二人乃至六人ヲ附シ其用ヲ便セシメシカ多クハ蘭語ヲ解セス其實密ニおらんだ人ノ監督ヲナスニ過キサリシト云フ、通詞ノ下ニハ筆者五人アリ、此外門番辻番等アリ出入ヲ見張リ又島内警戒ノ任ニ當レリ、商船入港ノ時ニハ多數ノ苦力亦出入セリ、食料品其他一切ノ需用品ノ供給ヲナセシハ長崎ノ町人十七軒ヨリ成レル出島こんぷら(Comprador,賣辯)ナリキ料理人ハ三人アリテ一人一ケ月交替ニテ其任ニ當リ下ニ手傳三五人アリ、此外ニモ庭番、牛飼等數人アリ、島内ニ在リテおらんだ人ノ俸給ヲ受ケ其用ヲナスモノ頗ル多カリシカおらんだ人ヨリ成ルヘク多クノ金ヲ絞取ラントシ不平ヲ洩セリ

おらんだ船ノ長崎ニ着スルハ毎年九月頃ニシテ、港口ノ遠見番之ヲ認ムレハ船番ニ報シ、船番ハ又奉行所ニ報ス、奉行所ノ役人及ヒ商館員ハ此報ヲ得テ港外凡ソ二浬ノ沖ニ出迎ヘ、役人ハ入港後ノ心得ヲ傳達シ乘組員名簿及ヒ積荷目錄ヲ出サシメ、商館員宛ノ書狀ハ一應奉行所ニ於テ檢閲シタル後館長ニ交附スル習慣ナリキ、斯クテ船ハ港内ニ進入シ出島附近ニ碇泊スルヤ奉行所ノ役人來リテ大砲彈藥其他一切ノ武器ヲ受取リテ陸上ノ倉庫ニ保管シ船側ニ

番船ヲ附シテ船員ノ乘降ヲ監セシメタリ、翌日役人ハ通詞及ヒ警護ノ武士ヲ伴ヒテ船内ニ至リ名簿ニヨリテ船員ヲ檢閱シ、再ヒ荷ヲ檢閱シ、再ヒ荷ヲ檢閱シ、再ヒ荷

畜等ヲ注文ニ應シテ持來ルコトアリキ、

而シテ一年ノ輸入額ハ元和元年ニハ五萬七千ぐるてん、寛永二年ニハ羅紗ノ輸入額二萬四千九百ぐるてん弱、寛永三四年ニハ同七萬六百五十ぐるてんニ上レリト云フ、右貨物ノ仕入及販賣價格ノ二三ヲ擧クレハ

	現價	賣價
生糸一ピクル(英一三三斤)	一八〇れある	三六〇—四〇〇れある
朱珍一端	八	一二
紋朱珍一端	六	九半
天鵞絨一端	八	一三
呉絽服一端	八	一二

ニシテ生絲絹織物類仕入代金及ヒ運賃ヲ合セテ百萬八千れあるノモノハ賣上金額百八十六萬二千三百七十五れあるニ上リ金八十五萬四千三百七十五れある即チ八割五分ノ利益ヲ得ル有樣ナリキ(千六百二十二年九月平戸蘭商館長ノ報告書ニヨル)

右輸入品ニ對シ蘭人カ日本ヨリ輸出セシ品ノ内ニハ陶器、漆器、彫刻品、屏風、金糸、壁紙、米、酒、醬油、茶、刻烟草、鮭、鰹、豚肉等アリシカ何レモ少類ニシテ主要ナルハ金銀銅ナリキ、但日本ノ地圖、城廓、寺社ノ繪圖、軍隊及ヒ船舶ノ繪、武器等ノ輸出ハ嚴禁セラレタリ、輸出ノ總額ハ元和元年ニハ六萬六千ぐるてん、元和二年ニハ十九萬五千ぐるてんニシテ元和八年ノ輸出額ハ銀三十二萬五千ぐるてん銅三萬二千ぐるてんニ上リ慶長十六年ヨリ寛永十八年ニ至ル三十一年間ノ一ケ年平均輸出額ハ黄金六十噸此價金五百萬圓銀千四百箱此價金百五十萬圓及ヒ銅六十箱ナリキ其後右輸出額ハ大ニ制限セラレ寛永五年ニハ銀三千貫目銅百五十萬斤ニ限ラレ享保十八年ニハ銀千百貫目銅百萬斤延享元年ニハ銀六百貫目銅六十五萬斤ニ減セラレタリ、而シテおらんだニ於テノ銅ノ時價ハ日本ニ於テノ價格ノ一倍半ナリシカ故ニおらんだ商會ハ大ナル利益ヲ以テ寶拂ヒタル輸入品ノ代金ヲ以テ銅其他日本支那ノ貨物ヲ仕入レテ更ニ利益ヲ得其占メタル日本貿易ノ全利潤大ナリシハ推シテ知ルヘシ

おらんだ船歸航ノ時期ハ毎年十一月頃ニシテ其日確定シタル後荷物ノ船積ヲ

始メ私有荷物ハ再ヒ嚴密ナル檢査ヲナシ禁制品アルトキハ之ヲ沒收シ之ヲ所持スルモノハ再ヒ日本ニ渡航スルコトヲ禁セリ、船積ヲ終リタル後曇ニ預リタル武器彈藥ヲ搭載シ船員ヲ檢閱シテ悉ク乘船セシメ直ニ港口ニ向ハシメ他船ノ至ルヲ待チ即時出帆セシメタリ、港外數浬ノ沖マテハ日本ノ番船之ニ伴ヒ海上ノ密貿易ヲ取締リタリ、日本來航船ノ數ハ初メ定數ナカリシカ後ニハ漸ク之ヲ減シテ每年二隻トナセリ、

れらんだ船出帆ノ後每年一月乃至三月ニ商館長ハ次席事務員、書記、醫師、通詞年番、料理人等ヲ率キ奉行所ノ番所衆同心ニ伴ハレ陸路小倉ニ至リ同所ヨリ下關ニ渡リ此所ニテ海路發送セシ荷物ヲ待受ケ新ニ仕立テタル船ニテ大阪ニ出テ京都ヲ經テ江戶ニ行クヲ常例トナセリ、江戶ニ於テハ將軍ニ謁シ老中以下幕府ノ重職ニ在ルモノヽ家ヲ歷訪シ贈物ヲナセシカ其價格ハ將軍家ヘノ獻上品一千乃至一千四百ぐるてん其他ノ贈物合セテ三四千ぐるてんニ達シ途中竝ニ江戶滯在中ノ諸費ト合算スレハ上府ノ費額總計六七千ぐるてんニ上リシカ、當時輸出入品ニ對シテ關稅ヲ課スルコトナカリシカ故ニ商會ハ之ヲ稅ト見做シ其

負擔ヲ以テ寧ロ輕キモノト思惟セリ、

おらんだ人ハ常ニ出島ニ居リ日本人ニ接シ日本ノ事物ヲ觀察スルノ機ナカリシカ故ニ此上府ハ途上竝ニ江戶滯在中取締極メテ嚴ナリシニ拘ハラス日本ニ關スル智識ヲ得ルノ最良時機ニシテ寬永鎖港後おらんだ人ノミ日本ニ來ルコトヽナリタル後歐洲諸國ノ人ハけんぺるぐ、しいぼると等カ上府ノ際ニナセル觀察ニ基キテ著シタル書ニヨリテ僅ニ日本ノ國情ヲ窺ヒ知ルコトヲ得タリ、

けんぺる(Engelbert Kaempfer)ハ北どいつノりつぺ(Lippe)ノ人ニシテぱーらんど(Poland)ノくらかう(Cracow)及ヒぷろしや(Prussia)ノけーにぐすべるふ(Koenigsberg)ノ大學ニ於テ醫學ヲ修メ後おらんだ東いんど商會ノ醫員トナリテいんど、すまとらじやばヲ巡歷シ千六百九十年五月ばたびやヲ發シテ九月二十二日長崎ニ着セリ、日本在留中千六百九十一年及ヒ九十二年ノ兩度館長ニ從ヒテ江戶ニ至リシコトアリ、千六百九十二年十一月日本ヲ去リばたびやヲ經テあむすてるだむニ着シ其鄕里ニ歸リテ醫業ニ從事シ千七百十六年ニ死セリ、其著外國見聞錄

(Amoenitates Exoticae, 1712) リ日本ノ歷史(History of Japan, 1727)此英譯ニ次イテ蘭語原書及ヒ佛獨文譯書出版セラレタリ)ニハ其ノ見聞ニ係ル日本ノ諸事及ヒ畧史ヲ掲ケ我邦ニ關スル智識ヲ西洋ニ弘メタリ、おらんだ商會ノ日本貿易ノ狀況、商會員ノ日本ニ於ケル生活ノ狀態等ニ付テハ本書ハ最好ノ史料タリ、

つゝんべるぐ(Charles peter Thunberg)ハすういーてん(Sweden)ノ醫師ナルカ藥草採集ノ爲メ東洋ニ來リ、千七百七十五年六月おらんだ東いんど商會ノ醫師トシテばたびやヲ發シ八月長崎ニ着シ翌年江戸ニ至リ後歸國セリ、其ノ著ハシタル日本植物誌(Flora Japonica, 1784)ニハ約千種ノ植物ヲ說明シ、日本旅行記(Voyages au Japon, 1796)すうぃーてん語ノ原書ハ千、七百八十九年ヨリ九十三年ニ亘リテ公刊セラレ、獨語英語等ノ譯書續イテ出テタリ)ニハおらんだ貿易ノコト及ヒ日本ノ諸般ノ事物ヲ記載シ兩ナカラ興味アル書ナリ、

しいぼると(Philipp Franz von Siebold)ハ南どいつばゞりや(Bavaria)ノ人ニシテうゐるつぶるぐ(Würzburg)ノ大學ニ於テ醫術ヲ學ヒ千八百二十二年おらんだ東いん

ど商會ノ醫員トナリテばたびやニ至リ翌年六月同所ヲ發シ八月長崎ニ入港セリ長崎ニ於テハ商館員ノ治療ニ從事スル外奉行ノ許可ヲ得テ長崎ノ醫師等カ設立シタル鳴瀧ノ校舍ニ於テ醫學及藥學ヲ講シ又日本人ノ難治ノ病ニ罹レルモノヽ診療ヲナセリ、千八百二十六年二月江戸ニ上リ三ケ月間滯在セシコトアリ千八百二十八年再ヒ上府シ此間日本ニ付テ大ニ研究スル所アリキ、同年冬ばたびやニ向ヒテ出發セントセシ際日本ノ地圖、繪圖、武器等禁制ノ品ヲ携ヘタルコト發覺シ留メラレテ出島ニ禁錮セラレ高橋作左衛門等彼ヲ助ケテ禁制品ヲ得セシメタル者ハ獄ニ投セラレタリ、千八百三十年ノ初メニ至リテしいぼるとハ罪狀決定シ日本ヲ逐ハレシカぺるり(Commodore Perry)來朝シ我邦再ヒ開國スルニ至リテおらんだ政府ノ盡力ニヨリしいぼるとハ再ヒ日本ニ渡來シ千八百六十一年ヨリ江戸ニ在リテ幕府ノ外國事務顧問トナリシカおらんだ人等反對スルモノ勘カラス一年ニ滿タスシテ後日本ヲ去リばたびやヲ經テ千八百六十四年おらんだニ歸リ後職ヲ辭シテ故郷ニ退隱セリ、其著日本誌(Nippon: archiv zur beschreibung von Japan, etc, 1832)及ヒ動

植物其他ニ關スル雜著ハ大ニ學界ノ珍重スル所ナリ、其ノ蒐集セシ日本品ハ、今
れらんだ國らいでんノ博物館ニ陳列シアリコレ亦大ニ珍重セラル、
びいてる、のいつ事件ノ落着後おらんだカ臺灣ニ施設セシ所ハ前ニ略述セシカ
其ノ潮ク緒ニ就クニ及ンテ支那本土ニ於テハ北方ヨリ侵入セシ滿洲軍ノ勢猖
獗ニシテ明朝大ニ衰ヘ廈門ヲ根據トシテ明朝ノ恢復ヲ謀リシ國姓爺鄭成功モ
數次ノ戰利アラス漸次清兵ノ壓迫ヲ受ケテ終ニ廈門金門ノミヲ保有スルニ至
リシカハ千六百六十一年四月海軍ヲ整ヘテ臺灣ニ渡レリ、臺灣ニ於テハ千六百
五十五年頃ヨリ成功カ臺灣ヲ攻擊セントスルノ意アルヲ傳ヘ聞キ屢々ばたび
や政府ニ對抗準備ヲナサンコトヲ求メシカばたびや政府ハ無根ノ風說トシテ
之ヲ等閑ニ附シ千六百六十年臺灣太守ノ請ニ基キテ警備ノタメ送リシ十二隻
ノ艦隊モ恐惶ノ理由ナシトシテ歸航セシ後ニ至リテ成功ノ大軍來攻シタレハ
おらんだ人ハ抵抗ヲナス能ハス敵軍ハ臺灣ノ支那人ノ內應ヲ得テぜらんぢや
城ト相對セル馬線尾角ヨリ上陸シ先ツ二百五十人ヨリ成レルおらんだ軍ヲ破
リ進ンテ赤嵌ノぷろびんしや(Provintie)城ヲ圍ミテ之ヲ陷レ終ニぜらんぢやヲ

攻圍セリ、ばたびや政府ハ歸航セシ艦隊司令官ノ報告ニヨリテ國姓爺來寇ハ全
ク臺灣太守こいえつと(Frederick Coyett 揆一王)カ臆病ニシテ風說ヲ迷信セシ誤
報ニ過キサルコトヽナシ終ニ其職ヲ免シくれんく(Hermanus Clenck)ヲ後任トナ
セシカ七月末くれんく着任ノ際ぜらんぢやハ既ニ包圍中ニ在リシヲ以テくれ
んくハこいえつとノ解任狀ト自己ノ任命狀トヲ城內ニ送リ直ニ基隆ニ航シ此
地モ亦到底維持スル能ハストナシ守備兵竝ニ居住蘭人百七十餘人ヲ搭載セシ
船ト共ニ日本ニ渡リ後ニばたびやニ歸航セリばたびやニ於テハこいえつとヨ
リ危急ノ報告ヲ得テ始メテ其執リ來リシ政策ノ誤レルヲ認メかーゆう(Jacob
Caeuw)ヲシテ艦隊ヲ率キテ赴キ援ケシメシカ八月中旬到着ノ節ハ暴風ノ爲メ
入港スルコトヲ得ス一時風波ヲ避ケテ九月再ヒ來リテ入港セシカかーゆうハ
籠城軍日ニ危クシテ到底救フ能ハサルモノトシ終ニ機ヲ見テ臺灣ヲ去リ遷羅
ヲ經テばたびやニ歸航セリ、おらんだ軍ハ是ニ於テ援軍ヲ失ヒ彈藥糧食モ亦缺
乏ヲ告クルニ至リシカ故ニ續々脫レテ敵ニ降ル者アリ、城內ノ狀況及ヒ防禦ノ
弱點モ亦敵ニ知ラレタレハ千六百六十二年こいえつとハ開城ニ決シおらんだ

人ハ武器ヲ帶ヒ私有財產ヲ携ヘ樂隊ニ伴ハレテ城ヲ出テ捕獲船及ヒ捕虜ノ解放ヲ受ケテばたびやニ渡ルコト及ヒ商會ノ財產ハ一切敵ニ渡スコトヲ條件トシテ二月一日降伏條約ニ調印シ兵士千人官吏商人等及ヒ其家族幷ニ所有品ヲ八隻ノ船ニ分載シテばたびやニ向ヘリ、こいえつとハばたびやニ於テ未タ危急迫ラサルニ當リテ降伏セシ罪ニ問ハレ特典ヲ以テ死刑ニ一等ヲ減シテばんだ島(Banda)ニ流サレ十二年ノ後漸ク許サレテ歸國セシカ、等閑ニ附セラレタル臺灣(Verwaerloosde Formosa, 1675)ト題スル書ヲ著ハシ、占領ノ晩年ノ歷史ヲ說キたびや政府ノ失政ヲ論セリ、ばたびや政府ハ此後清朝ノ助ヲ借リテ國姓爺ヲ討タント謀リシコトアレトモ終ニ其效ナク臺灣ハ一度失ヒテ終ニ回復スルコト能ハサリキ、

おらんだハ右ニ述ヘタル如ク終ニ臺灣ヲ失ヒシカ是ヨリ先キじやばヲ中心トシすまとら及ヒもろつか諸島ニ其勢力ヲ及ホシあんぼいな島(Amboina)ヨリハぼるとがる人及ヒ英人ヲ驅逐シさらつか(Malacca)せーろん(Ceylon)せれべす(Celebes)ヲぼるとがる人ヨリ奪ヒ漸ク英蘭ノ勢力ヲ創キいんど及ヒ南洋諸島ニ於

ケル貿易ヲ殆ンド獨占スルニ至レリ、日本貿易ヲ專ニセシコトハ又大ニ其ノ東洋及ヒ南洋貿易ノ隆盛ヲ助ケタリ、

我邦ニ於ケルおらんだ貿易ノ概況ハ前ニ述ヘシカ連續二百五十餘年ニ及ヒ寬永ノ鎖國以後おらんだハ實ニ我邦ト歐洲トノ唯一ノ連鎖ナリシカ故ニ彼ノ文明ヲ輸入スルニ於テハ尠ナカラサル效アリキ、初メ幕府ハきりすと敎ヲ恐ルヽノ餘リ蘭人ノ取締ヲ嚴ニシ蘭書ヲ讀ムコトヲ嚴禁セシカ將軍吉宗ノ代ニ及ヒテ天文曆算ノ學術ニ於テハ西洋ノ進步著ルシキヲ認メ青木文藏(號昆陽、甘藷先生)ニ命シテ蘭語ヲ修メシメ其建議ニヨリ宗敎ニ關係ナキ蘭書ノ禁ヲ解キ玆ニ蘭學隆盛ノ端緒ヲ開ケリ、次イテ中津ノ藩醫前野良澤(蘭化先生)青木文藏ニ就イテ蘭學ヲ修メ後長崎ニ至リ通詞ニ就テ更ニ之ヲ研鑽セリ、明和八年良澤小塚原ノ刑場ニ於テ罪囚死體ノ解剖ヲ見蘭書ト對照シテ其正確ナルヲ認メ同行ノ若狹藩醫杉田玄白ト共ニ人身內景圖說(Tafel Anatomica)ノ翻譯ヲ計リ四年ノ日月ヲ費シ稿ヲ改ムルコト十一回ニシテ始メテ脫稿シ安永三年八月解體新書ト題シテ之ヲ出版セリ、是ヨリ先キ紅毛談トイフ書ヲ著ハシ文中蘭語ヲ載セタルカ

爲メニ絕版ヲ命セラレシモノアリ、良澤等ハ新刊ノ譯書ニ對スル幕府ノ處置如何アランヿト懸念セシカ終ニ事ナキヲ得タリ、世人亦此書ニヨリ漸ク西洋學術ノ進歩ヲ認メ醫ヲ業トスルモノニシテ良澤玄白等ニ就イテ蘭學ヲ修ムル者益々多クおらんだ流ノ醫師漸ク多キヲ加ヘタリ、玄白ノ門人大槻玄澤蘭學階梯ヲ著ハシ蘭字ヲ載セ蘭語文法ノ初歩ヲ說イテ初學者ノ便ニ供シ、寛政八年其門人稻村三伯はるま(Harma)ノ蘭佛對譯字書中ヨリ八萬餘言ヲ譯出シはるま和解ト題シテ之ヲ公ニシ幕府モ亦おらんだ商館長どーふ道富、Hendrick Doeff ニ命シ通詞ノ助ヲ借リテ同字書ニ基キテ蘭和字書ヲ編纂セシメタリ、之ヲどーふ、はるまノ字書ト稱セリ、後安政二年法眼桂川氏之ヲ訂正增補シテ出版セリ、和蘭字彙是ナリ、文化七年京都ノ人藤林泰介はるま和解ヲ省略シらてん語藥名ノ譯語二千七百ヲ附シ譯鍵ト名ケテ出版セリ、此ノ如ク字書文法書ノ著アリ蘭語ヲ學フノ便漸ク多ク蘭學者ノ數モ從テ增加セリ而シテ初メ蘭學者ノ目的トセシハ外科ナリシカ寛政四年津山藩醫宇田川玄隨蘭書ヲ譯シテ西說內科撰要及ヒ東西病考ヲ著ハシ蘭法內科ノ學說ヲ傳ヘ、文化十年吉田長叔始メテ內科ノ業ヲ開キシ後

內科ニ於テモ蘭法漸ク勢ヲ得タリ、醫學ニ伴ヒテ動植物ノ研究盛ニ行ハレ又物理學ニ於テハ平賀源內、油繪ニハ司馬江漢等輩出シおらんだノ學術彌々弘マレリ、大砲ノ鑄造及ヒ扱方モ亦おらんだ人ニ學ヒ兵學モ亦之ヨリ傳ヘタリ、長崎ノ高島四郎太夫、韮山ノ江川太郎左衛門、松代藩ノ佐久間象山等皆有名ノ西洋砲術家軍學者ナリ、

おらんだ人ハ右ノ如ク永ク西洋文明輸入ノ媒介タリ蘭學ノ行ハルヽコトモ久シカリシカ故ニ幕府鎖國ノ政策ヲ捨テ歐米諸國ト通交スルニ及ヒ文化六年大小通詞中數人ヲ選ヒテ露語及ヒ英語ヲ修メシメ同八年ニハ通詞一統ヲシテ右二國語ヲ學ハシメ次テ佛語モ亦行ハルヽニ至リシト雖モ蘭語ハ依然トシテ我邦ト歐洲諸國トノ間ノ交通語タリ明治ノ初年ニ至リテ始メテ英語ヲ代用スルニ至レリ、蘭學隆盛ノ時代ニハ蘭人ヨリ蘭名ヲ附ケ貰ヒシモノアリ鷹見忠常カへんどりつくぐだつべるト稱セシハ其例ナリ又蘭字ノ印ヲ用ヒシモノアリ書狀ニ蘭語ヲ雜ヘタルモノモ勘カラス、左レハ外國ヨリ輸入セシ事物ノ名稱等蘭語ヲ我國語ニ採用セルモノモ勘カラサルヘキカ英語盛ニ流行スルニ及ヒいぎり

す流ノ稱呼從前ノ名稱ニ代リタルモ尠カラス今日我國語中ニ存スルおらんだ語ハ甚タ多カラス左ニ其ノ主要ナルモノヲ掲クヘシ、

呉絽服、呉呂福林	織物ノ名	grofgrein	讀方グロフグライン
ヅック	織物ノ名	doek	ヅーク
ブリキ	鐵葉	blik	ブリク
オルゴル	樂器ノ名	orgel	オルゲル
カーヘル	暖爐	kachel	カツヘル
メス	小刀	mes	メス
ランドセル	背嚢	ransel	ランセル
パトロン	藥莢	patroon	パトローン
カミツレ	藥名	camille	カミルレ
マドロス	水夫	matroos	マトロース
唐國鳥（カラクニ）	七面鳥ノ類	kalkhoen	カルクフーン
ドンタク	日曜日、休日	zondag	ゾンダク

【註】おらんだ語ニテハgハどいつ語ノchト同シク發音スレトモ我邦ニテハぱるとがる語ノ讀方ニヨリ常ニぐト發音セリ故ニ此所ニハほろーふほらいんヲぐろーふぐらいん、おるへるヲおるげるト讀メリ。

第八章　いぎりすノ東洋貿易

いぎりすカ初メテ東洋貿易ニ着目セシハ十六世紀ノ末ニシテ千五百八十年ニハ東北ノ航路ヲ取リテ東洋ニ出テ支那日本ニ至ラント試ミタルコトアリ、千五百八十二年ニハすちぶんす(Captain Stephens)喜望峯ヲ廻リテいんどニ至リ千五百八十六年ニハきやべんぢつし(Cavendish)いんどヲ經テふいりつぴん諸島ニ渡リ三年ノ後ニ歸國セリ、是ヨリ東洋ノ事情漸ク明ニナリ千五百九十三年東洋ヨリ歸航中ノぽるとがる船ヲ捕獲シ多ク珍奇ナル東洋貨物ヲ搭載セシヲ見テ益々東洋貿易ノ利ヲ想フニ至レリ、千五百九十八年りんすほーてんノ航海紀英譯セラルヽニ及ヒ東洋航路ニ關スル智識確實トナレリ、是ニ於テ彌々東洋貿易ニ從事スル目的ヲ以テ千六百年十二月三十一日東いんど商會(the Company of me-

rchants of London trading into the East Indies)ヲろんどんニ設立セリ、商會ノ第一航海ハ翌年二月出帆セシ五隻ノ艦隊カナセシモノニシテ其後いんどヨリ進ンテ南洋ニ來リじやば島ノばんたんヲ根據トシテ南洋貿易ニ從事セリ、

いぎりす東いんど商會カ支那及ヒ日本ト通商セント欲セシハ當初ヨリノコトナリシカ千六百十年ニ至リ艦隊ニ國王ぜーむす一世(James I)ヨリ日本皇帝ニ贈ル書ヲ與ヘ機ヲ見テ日本ニ至ルヘキコトヲ命シ千六百十一年ノ艦隊ニモ亦同樣ノ書簡ヲ與ヘばんたんヨリ直チニ日本ニ航スヘキコトヲ訓令セリ、司令官じよんせーりす(Captain John Saris)ハ三隻ノ船ヲ率キテ千六百十一年四月出帆シ翌年十月ばんたんニ着シ同所ニ於テ準備ヲ整ヘくろーぶ號(the Clove)ニ乘リ英人七十四名いすばにや人一名日本人一名黑人五名ヲ率キテ千六百十三年一月十五日出港シ六月十一日(慶長十八年四月十三日)平戸ニ着セリ、

是ヨリ先キ慶長五年豊後ニ漂着セシおらんだ船りーふて號ノ航海士ニシテ英人ナルういりやむ、あだむすハ爾後日本ニ留リ家康ニ用ヒラレテ外國人應接ノ事ニ斡旋シ又其命ニヨリテ西洋形帆船ヲ造リシコトアリ、漂流呂宋太守どん、ろ

どりごヲめきしこニ送還セシハ其一ナリキ、あだむすハおらんだ人ヨリ英人ノ南洋ニ來リシ由ヲ聞キ日本貿易ノ利益アルコトヲ述ヘタル書ヲ好便ニ託シテ南洋ニアル未見ノ同邦人ニ(一六一一年十月一日附)送リ日本ト通商センコトヲ勸誘セリあだむすノ日本ニ居リシコトハ英國ニモ知レタリシカ故ニせーりすハ日本ニ到着セハあだむすニ周旋ヲ依頼スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケ、ばんたんニ於テハ同所ニ着シ居タル前記ノ書簡ヲ見タリ、平戸ニ着スルヤ直チニ使ヲ發シテ來着ヲあだむすニ報シ其來ルヲ待チテ諸事ヲ協議シ八月七日平戸ヲ發シテ駿府ニ至リ九月八日家康ニ謁シテせーむす一世ノ書ヲ呈シ通商ノ許可ヲ請ヘリ、次テ江戸ニ至リテ秀忠ニ謁シ歸途再ヒ駿府ニ立寄リ特許狀及ヒいぎりす王ニ贈ル書簡ヲ受取リテ歸途ニ就ケリ、十一月六日平戸ニ歸着シ二十六日會議ヲ開キテ同所ニ商館ヲ置クコトヲ決シ商館長こつくす(Richard Cocks)以下英人八人日本人通譯三人ヲ以テ館員トナシせーりすハ十二月五日出帆歸國ノ途ニ就ケリ、せーりすカいぎりす商館ノ爲メニ得タル通商上ノ權利ハ十分ナルモノニシテ從前他歐洲人ノ得タルモノヨリモ完備セルハあだむすノ盡力與リテ力アリ

シナリ左ニ其條項ヲ掲クヘシ

一　いぎりすより日本へ今度初而渡海之船萬商賣方之義無相違可仕其渡海仕付而は諸役可令免許事

一　船中之荷物之義は用次第に目錄に而可召寄事

一　日本之内何之港へ成共著岸不可有相違若難風逢帆楫絶何之浦々へ寄候共異議有之間敷事

一　於江戸望之所に屋敷可遣之間家を立致居住商賣可仕候歸國之義何時にてもいぎりす人可任心中付立置候家はいぎりす人可爲儘事

一　日本之内に而いぎりす人病死なと仕候者共之荷物無相違可遣之事

一　荷物おしかい狼籍仕間敷事

一　いぎりす人之内徒者於有之者依罪輕重いぎりすの大將次第可申付事

右如件

慶長十八年八月二十八日

いんぐらていら Inglaterra 即チいぎりすナリ

平戸ノいぎりす商館ヨリハ大阪ヲ中心トシテ京都堺ノ商人ト直取引ヲナス爲メニ館員一名ヲ大阪ニ派シ江戸及ヒ駿河ニ於テ販路ヲ開ク爲メ江戸ニモ亦一名ヲ出張セシメタリ又對島ヲ經テ朝鮮トモ通商セント計リシカ不成效ニ終レリ又時々交趾及ヒ暹羅ニ船ヲ送リテ日本ニテ需用スル商品ノ仕入ヲ努メタリ元和二年外國人ノ内地居留ヲ禁セラルヽニ及ヒいぎりす人モ亦江戸大阪ノ出張員ヲ引上ケ平戸ニ於テノミ貿易ヲ營ムコトヲ許サレタリ此時幕府ヨリ與ヘタル朱印ハ左ノ如シ

一　自伊祇利須至日本國渡海商船、於平戸可賣買、他所不許之、縱令雖遭風波之難到本邦之地、不可有異議、竝諸役免除之事、

一　船中資財隨所思、以目錄可召寄事、

一　不可有押買狼籍事

一　彼國人若有病死之輩者、其荷物不可有相違事

一　船中商客、於有罪科者、任其國法、可隨船主心事

右可相守此旨者也

元和二年八月二十日

いぎりす商館ハぽるとがる、おらんだ等商館ノ競爭ノ爲メ初ヨリ利益尠カリシカ貿易地ヲ平戸ニ限ラルヽニ及ヒテハ彌々競爭劇シク一時ハ蘭英兩國商館員平戸市ニ於テ相鬪フニ至レリ、元和五年英蘭兩國間ニ聯合シテ西葡兩國ニ當ル防守同盟成立シ聯合艦隊ノ一部平戸港ヲ根據地トナセシ時代ハ英商館ノ最モ多忙ニシテ且繁昌ナル頃ナリキ元和七年ノ如キハ船艦ノ修繕及ヒ食料品、軍需品供給ノ費トシテ支出セシ所一萬磅ニ達シ捕獲品ノ利ハ元和八年ニハ四萬磅ナリシト云フ、然レトモ同盟ハ繼續僅ニ三年ニシテ破レシカハ蘭英兩商會ノ競爭ハ舊態ニ復シ、英商館ハ終ニ壓倒セラレタリ、ばんたんニ在ルいぎりす東いんど商會ノ東洋本部ハ元和八年平戸商館ノ引上ヲ命シこつくす等カ急ニ之ヲ實行セサルヲ見テ翌年更ニ嚴シキ命令ヲ發シ特使ヲ出シタレハ商館ノ貸附金總計約四千磅ノ取立ヲおらんだ商館長ニ托シ同年十月商館員一同ぶる號(the Bull)ニテ平戸ヲ發シ十一月末ばたびやニ着セリ

英商館ハ右ノ如ク存在期限僅ニ十一年ニシテ館員ヲ引上ケタレハ其利益モ多

カラス當初ニ得タル權利ノ大ナリシニ比シテハ其結果殊ニ不良ナリシカ其原因ハせーりすカあだむすノ勸告ヲ聞カス家康ノ希望ニ背キ商館ヲ浦賀ニ置カスシテ平戸ニ設ケおらんだ商館ト劇烈ナル競爭ヲナスニ至リシトこつくす始メ商館員ノ事務ニ疎カリシトニ在ルカ如シ、ういりやむ、あだむすカ元和六年四月ニ死シタルコトハ商館ニ不利益ヲ釀セリ、あだむすハ永ク日本ニ在リテ國情ニ通シ又家康ノ寵ヲ受ケ其勳功ニヨリ相州三浦郡邊見ニ采地ヲ賜ハリ三浦安針(按針ハ航海士ノ義ナリ)ノ名ハ內外ノ商人ニ知ラレ居タリ、彼カ幕府ノ信用ヲ利用シテ英商館ノ爲ニ盡シタル所モ勘カラサリシカハ其死ハ英商館ニ取リテハ大打擊ナリシナラン、あだむすハ平戸ニ於テ死シ其墓ハ邊見ニ在リ東京日本橋區安針町ハ其邸宅ノ在リシ所ニシテ町名ハ實ニ其名ニ因ミテ附ケシモノナリ、あだむすノ子じよせふハ父ノ死後封ヲ繼キ三浦安針ノ稱ヲ襲ヒテ外國航海ニ從事セリ』

慶長十八年せーりすカ平戸ニ着シテ後チ間モナク居留支那人ノ頭人あんだつし(Andasse)(又ハあんどれあぢつちす(Andrea Dittis)ト呼レタル人ニシテ顏思齊ナランヽ云フモノアリ)ヨリ家屋ヲ借用シ其翌年ニハ日々百餘人ヲ使役シテ商館

ヲ新築セシコト當時ノ館員ノ通信ニ見エ、元和七年ニ住宅倉庫及ヒ埠頭ヲ建築シ此時使傭セシモノ多キ時ハ一日人足二百四十一人大工八十人ニ上リ、工事ハ一月末ヨリ五月末ニ亘リ、材木ハ大村ヨリ、瓦ハ田平、飯盛、石材ハ名護屋ヨリ取寄セシコト當時ノ記錄ニ見エタリト雖モ、おらんだ商館跡ノ崎方ニ現存スルニ反シいぎりす商館ハ全ク痕跡ヲ留メス、平戸ノ舊記錄ナル小澤書留ノ「居所、町並ヱゲレス崖」ト云ヘルモ何處ヲ指セルカ明ナラサリシカ、おらんだノ都ヘーグ(the Hague)ノ古文書館ニ元和七年製ノ平戸ノ圖アリ、圖中ニ二種ノ國旗アリ、一ハおらんだノ三色旗ニシテ今日おらんだ塀ノ存スル邊ニ畫キアリ、又一ハ白地ニ赤十字ノ旗ナリ(此ハいぎりす國ノ守護神せんとじよーじ(St. George)ノ十字ヲ表シタルモノニシテ、現今ノいぎりすノ國旗ハいぎりすトすこつとらんどトあいるらんどト聯合シタル後すこつとらんどノ國旗青地ニ守護神せんと、あんどりゆー(St. Andrew)ノ白×字トあいるらんどノ國旗白地ニ守護神せんと、ぱとりつく(St. Patrick)ノ赤×字トいぎりすノ國旗白地ニせんとじよーじノ十字ヲ合セタルモノナリ)此十字旗ノ畫キアル所カいぎりす商館ノ所在地ナルハ明ニシテ、いぎりす商館ハ平戸ノ西南端ノ小川ノ岸ニアリシヲ知ルコトヲ得タリ、英商館員カ平戸ヲ引拂ヒシ時建築物ノ保管ハ領主ニ委託セシカ、十分ノ手當ヲ加ヘサリシカ漸次崩壞シ庭ハ雜草生ヒ茂リシ由其頃ノおらんだ人ノ通信ニ見エ、寛永四年ニハ蘭館ノ長ヨリじやば總督ニ宛テ平戸ノ領主舊英商館ヲ蘭人ニ賣渡セシ由英人間ニ噂スル趣ナルカ彼ノ如キ破屋ヲ購ムル必要ナク、領主ヨリ之ヲ贈ラントスルトモ受ケサルヘシト云ヘリ、以テ此商館ノ建物カ當時既ニ頽廢セシヲ推知スヘシ、

平戸商館員引上ケノ時代ハいぎりすノ勢力極東ニ於テ最モ薄弱ナリシ頃ニシテ千六百二十三年ニハいぎりすノ商人あんぼいな島(Amboyna)ニ於テおらんだ人ノ爲メニ虐殺セラレ、翌年終ニ南洋諸島ヨリ退去セサルヘカラサルニ至リシカいんどニ於テハいぎりすノ商會ハ漸次勢力ヲ得千六百四十年ニハまどらす(Madras)ニ殖民ヲ置キ次イテ之ヲ該地方統治ノ中心トシ千六百四十五年ニハべんがる(Bengal)其他數ケ所ニ商館ヲ設ケ、千六百六十八年ニハ英王ちやーれす二世(Charles II)ヨリぼんべー(Bombay)ノ贈與ヲ受ケタリ、

此頃曩ニ蘭人ヲ逐ヒテ臺灣ヲ占領セシ鄭成功ノ子鄭經外國貿易ノ利アルヲ見テ外人ノ臺灣通商ヲ勸誘セシカハいぎりす東いんど商會ハ之ニ應シ千六百七十年九月十日通商條約ヲ定メ臺灣ニ商館ヲ置キ廈門ニ出張所ヲ設ケタリ、千六百八十二年ばんたんノ東いんど商會支社ハ臺灣ノ危殆ニ迫リシヲ見テ商館ノ引上ヲ決議セシカ斯ル間ニ清兵終ニ渡臺シ商館ノ撤退ヲ許サス、又司令官等ヨリ支那本土トノ通商ヲ許スヘキヤノ内議アリシ爲メ一時滯在セシカ千六百八十四年館員ノ一部ハ暹羅ニ移リ、翌年ノ初メ殘員全ク引上ケタリ、而シテ其ノ收メ得タル利益ハ甚タ多カラサリキ、鄭氏滅亡ノ際政府及ヒ大官等ノ負債總額一萬磅ヲ超エ到底回收ノ見込ナキモノ千五百磅ニ上リシト云フ、

商會カ臺灣政府ト協定セシ條約ハ當時ノ貿易ノ狀態ヲ推知スルノ一助トナルニヨリ左ニ掲ク、

一、臺灣王ノ船ハ海上ニ於テいぎりすノ國旗ヲ掲ケタル船ニ危害ヲ加ヘサルヘシ。

二、英人ハ何人ニモ隨意ニ商品ヲ賣却シ亦何人モ自由ニ英人ト貿易スルコトヲ得ヘシ。

三、英人ハ鹿皮、砂糖其他臺灣ノ產物ヲ隨意ニ日本、まにら、其他ノ地方ニ輸出スルコトヲ得ヘシ。

四、臺灣ニ於テ英人ニ對シテ危害ヲ加ヘ又ハ損失ヲ被ラシムルモノアルトキハ臺灣王ハ賠償ノ責ニ任シ、英人ノ加ヘタル危害及ヒ損失ハいぎりす商館長之ヲ處理スヘシ。

五、英人ハ何時ニテモ隨意ニ國王ニ接見スルコトヲ得ヘシ。

六、英人ハ通譯書記等ヲ隨意ニ選擇シ、行歩ノ際支那人ノ同行監視ヲ受ケサルヘシ。

七、いぎりすノ水夫死亡セシトキハ商會ハ支那人ヲ雇傭スルコトヲ得ヘシ。

八、いぎりす商館ハ船舶出入ノ際ニ水先案內ヲ雇ヒ、又荷物積卸ノ爲メ短艇ヲ借用スルコトヲ得ヘシ。

九、商館ハ國內ノ賣買ニ用フル尺度及ヒ秤量ヲ借用スルコトヲ得ヘシ。

十、國王又ハ商人ヨリ商館ニ賣渡スヘキ物品ハ時價ニヨルヘシ、若シ然ラサ

ル場合ニハ商館ハ其買受ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシ。

十一、商館ハ隨意ニ金銀ヲ輸出シ得ヘシ。

十二、英人ハ必要ト認ムル場合ニハ商館ヲ引上ケ商館附屬ノ諸品ヲ持去ルコトヲ得ヘシ。

十三、英人ハ國旗ヲ掲揚スルコトヲ得。

十四、商館ニ對スル債務ヲ果スコトヲ拒ムモノハ國法ニヨリテ處分セラルヘシ。

十五、商品ノ輸入ハ隨意ニシテ國王ハ何物モ禁制品トナスコトナカルヘシ。

十六、いぎりすノ船員ハ商館長ノ許可ナクシテ支那船ニ乘組ムコトヲ得ス。

十七、牛ハ毎週唯一匹ヲ屠ルコトヲ得ヘシト雖モ其他ノ食料品ハ隨意ニ購入シ得ヘシ。

十八、國王ノ賣上品ニ對シテハ關税ヲ拂フコトナカルヘシ。

十九、輸入米ニハ課税セサルヘシ。

二十、商館ハ此等ノ條件ノ外必要ニ應シテ更ニ他ノ條件ヲ要求スルコトヲ得ヘシ。

右ノ條件ニテ貿易ヲ許スニ付臺灣王カいぎりす商館ニ要求セシ所ハ左ノ如シ。

一、臺灣王ハモトおらんだノ有タリシ商館ニ倉庫ヲ增築シテいぎりす商館ニ貸與スルニ付商館ハ借賃トシテ一ケ年五百(兩カ)ヲ支拂フヘシ。

二、輸入品ニハ賣上高ノ三分ヲ課税シ、輸出品ハ無税タルヘシ。

三、臺灣ニ入港スル船舶ハ銃砲、彈藥及ヒ武器一切ヲ政府ニ預クヘシ、出帆ノ際政府ハ之ヲ返付スヘシ。

四、商館ニハ二人ノ砲手ヲ留メ臺灣王ノ用ニ供スヘシ。

五、商館ニハ大砲鑄造ノ爲メ常ニ鍛冶一人ヲ留メ置クヘシ。

尙ホ臺灣王ハ

一、火藥	二百樽	一、銃	二百挺
一、英鐵	一百擔(Picul)	一、胡椒	三百擔
一、上耕羅紗	二十反	一、上黑羅紗	十反
一、上青羅紗	十反	一、枝珊瑚及ヒ珊瑚珠	

一、色嗶吱端(Perpetuano)　一、琥珀(Amber)

一、栴檀　一百擔　一、さらむぽーる(Sallampore)及ヒむーりー(Mooree)(以上兩種いんどノ織物)　二百反

ヲ年々輸入センコトヲ商會ニ請求セリ、

ろんどんノ東いんど商會本社ハ日本商館閉鎖ノ報ニ接シタル後直ニ再ヒ日本貿易ヲ開始センコトヲ計畫シ屢々ばんたんニ向ケテ訓令ヲ發セシカ種々ノ障碍ノ爲メ實行スルコト能ハサリキ千六百七十一年ニ至リりたーん號(Return)及ヒえきすぺりめんと號(Experiment)ノ二隻ヲ派遣シ臺灣ヲ經テ日本ニ航セシムルコトニ決シ、日本商館ノ役員及ヒ其俸給ヲ定メ、臺灣國王ニ日本皇帝宛ノ添書ヲ請フコトヽシ、英王ノ書狀幷ニ前年幕府ヨリ與ヘタル通商免狀ノ寫ヲ携ヘ九月出帆セシメタリ、兩船ハ千六百七十二年五月ばんたんニ着シ同六月十日臺灣ヘ向ケテ出帆シ、七月五日着、ゑきすぺりめんと號ハ砂糖鹿皮等ヲ積込ム爲メ同所ニ留リ、りたーん號ノミ翌年六月十日出帆シテ二十九日長崎ニ着シ長崎奉行ヲ通シテ再ヒ貿易ヲ開クノ許可ヲ幕府ニ乞ヒシカ是ヨリ先キばたびやノおらんだ總督ヨリ長崎ノおらんだ商館長ヘ英船ノ渡來ヲ豫告シ競爭ヲ豫防センカ爲メいぎりす國王ハぽるとがるノ緣戚ニシテ同一宗教ヲ奉スルモノナルコトヲ幕府ニ密告セシメタレハ幕府ハ之ヲ信シ通商ノ許可ヲ與ヘス船員ノ上陸ヲモ許サスシテ八月二十八日歸航セシメタリ、但シ食料品其他必需品ハ之ヲ供給セシメタリ、此事ノ詳細ハけむぺる(Kaempfer)ノ日本史卷末ノ附錄日本日記(The Japan diary)及ヒ長崎古今集覽所載ノ「寛文十三年丑五月二十五日ゑげれす入津萬覺帳ゑげれすかぴたん阿蘭陀かぴたんニ被成御尋候色々」ノ兩記錄ニ就イテ知ルコトヲ得ヘシ、東いんど商會ハ此後モ常ニ日本貿易ノ再興ヲ企テツヽアリシカ意ノ如クナラス千八百〇八年十月ふえーとん號(Phaeton)蘭船ヲ逐ヒテ長崎ニ入港セシコトアリ、千八百十三年いぎりす人じあばヲ占領シタル後軍艦二隻ヲ長崎ニ送リ商館員ヲ更エ商館ヲいぎりすノモノトナサントセシカ館長どーふ(Doeff)前年長崎ヲ荒ラセシ英人ノ來リシ趣ヲ幕府ニ訴ヘシ爲メ謀成ラス却テ日本人ノ襲擊ヲ避ケンカ爲メ急ニ出港スルノ止ムヲ得サルニ至レリ英人ハ此ノ如クシテ維新ノ際ニ至ルマテ終ニ其目的ヲ達スルコト能ハサリキ。

いんどニ於テハいぎりすノ勢力漸ク増大シ其頃南いんどニ擾リシふらんす人
ト衝突シ千七百四十八年來佛領ぽんでちえり(Pondicherry)ノ太守ぢゆぷれー
(Duplein)ト英領ノ太守くらいぶ(Robert clive)トノ間ニ數次ノ戰爭アリ、くらいぶ屢
々勝利ヲ得千七百六十年ニ至リテいぎりす終ニ優勝ノ位置ヲ占メタリ、千七百
七十四年へーすちんぐす(Warren Hastings)いんど總督トナルニ及ヒいぎりすノ
勢力益々強固ニナレリ。
商會カ千六百二十年マテニいんどニ出セシ船ハ總數七十九隻ニシテ内二十隻
ハ或ハ難破シ或ハ蘭人ニ捕獲セラレタリ殘餘ノ船舶ノ搭載シ歸リシ商品ハ原
價三十五萬六千餘磅ニシテ賣上高ハ百九十萬磅以上ナリシト云フ、いぎりすノ
勢力強盛ナルニ及ヒ商會ノ收入ハ多額ナリシモ隨テ支出多ク、社員中ニハ又私
利ヲ謀ルモノアリ商會ノ純益ハ却テ少ナカリキ、テレハ千八百十三年いぎりす
政府ハ何人モ自由ニいんどニ通商貿易スルヲ許可セシニ千八百十年一百萬磅
ニ過ギサリシ貿易額ハ千八百十九年ニハ三百萬磅以上ニ達シ貿易公開ノ利益
明白ナリシカハ千八百三十三年商會ノ特許期限經過セシ後貿易獨占權ヲ放棄

第九章　南北あめりかノ發展

第一節　英領時代ノ北あめりか

千六百五十四年七八人ノ猶太人ハ和蘭ノ植民地ナル新あむすてるだむ(New Amsterdam)ニ上陸シ以テ北あめりかニ於ケル猶太人植民ノ嚆矢トナセリ(New Amsterdamハ後ニ英人ノ占領スル所トナリ名ヲ改メテにゆーよーく(New York)ト稱スルニ至レリ)爾來猶太人ハ漸次ニ北あめりかニ移住シ來リ千七百年ニハ其數殆ント二千ニ達シ其ノ大部分ハ商業ニ從事シ又ハ金融業ヲ營ミ或ハ貿易品ノ販賣ニ從事シ或ハ手藝ヲ以テ生活スルモノ多シ

英領時代ニ於ケル北あめりかハ一般ニ物價低廉ニシテ(但シ奴隷ノ價格ハ例外ニ騰貴セリ)且ツ勞銀ハ比較的高キヲ以テ勞働者ハ容易ニ獨立ノ農民トナルヲ得タリ(但シ勞働者ハ多クハ年期奉公人ニシテ其年期ハ普通四年ナリキ)此ノ如キ事情ノ下ニ於テハ北あめりかニ於ケル産業ハ主トシテ農業ニシテ其ノ製造工業ノ如キハ僅ニ其ノ端緒ヲ開キタルニ過ギス

英領時代ニ於ケル北あめりかノ農業ハ主トシテ煙草、米、藍、甘蔗、棉花ノ栽培ニシテ煙草ハ主トシテ弗吉尼亞、馬里蘭、北加羅來那ノ諸州ニ於テ栽培セラレ米ハ主トシテ南加羅來那ニ於テ栽培セラレ藍ハ主トシテ南加羅來那ニ於テ栽培セラレ甘蔗ハ主トシテ西印度諸島ニ於テ栽培セラレ棉花ハ主トシテ南加羅來那ニ於テ栽培セラレタリ

英領時代ニ於ケル北あめりかノ製造工業ハ主トシテ家内工業ニシテ其ノ製造品ハ主トシテ家内ノ消費ニ供セラレタリ

英領時代ニ於ケル北あめりかノ貿易ハ主トシテ英國トノ間ニ行ハレタリ即チ北あめりかハ英國ニ對シテ煙草、米、藍、甘蔗、棉花、毛皮、木材、鐵、穀物、魚類等ヲ輸出シ英國ヨリ毛織物、綿織物、絹織物、麻織物、鐵製品、武器、陶器、ガラス、雜貨等ヲ輸入セリ

英領時代ニ於ケル北あめりかノ交通ハ主トシテ水路ニ依リタリ陸路ノ開カレタルモノ僅ニ數條ニ過ギス

英領時代ニ於ケル北あめりかノ人口ハ千七百年ニ於テ二十五萬人ニ過ギサリシカ千七百七十五年ニ於テハ二百五十萬人ニ達シ其ノ人口ノ增加ハ實ニ驚クヘキモノアリ

英領時代ニ於ケル北あめりかノ人口ハ主トシテ英國ヨリノ移住民ニシテ其ノ移住民ノ多クハ宗教上ノ迫害ヲ避ケ又ハ經濟上ノ困難ヲ避ケ又ハ冒險ノ心ニ驅ラレテ移住シ來リシモノナ

いんどニ於テハいぎりすノ勢力漸ク增大シ其頃南いんどニ據リシふらんす人ト衝突シ千七百四十八年來佛領ぽんでちえり(Pondicherry)ノ太守でゆぷれー(Dupleix)ト英領ノ太守くらいぶ(Robert clive)トノ間ニ數次ノ戰爭アリ、くらいぶ屢々勝利ヲ得千七百六十年ニ至リテいぎりす終ニ優勝ノ位置ヲ占メタリ、千七百七十四年へーすちんぐす(Warren Hastings)いんど總督トナルニ及ヒいぎりすノ勢力彌々強固ニナレリ。

商會カ千六百二十年マテニいんどニ出セシ船ハ總數七十九隻ニシテ內二十隻ハ或ハ難破シ或ハ蘭人ニ捕獲セラレタリ殘餘ノ船舶ノ搭載シ歸リシ商品ハ原價三十五萬六千餘磅ニシテ賣上高ハ百九十萬磅以上ナリシト云フ、いぎりすノ勢力強盛ナルニ及ヒ商會ノ收入ハ多額ナリシモ隨テ支出多ク、社員中ニハ又私利ヲ謀ルモノアリ商會ノ純益ハ却テ少ナカリキ、サレハ千八百十三年いぎりす政府ハ何人モ自由ニいんどニ通商貿易スルヲ許可セシニ千八百十年一百萬磅ニ過ギサリシ貿易額ハ千八百十九年ニハ三百萬磅以上ニ達シ貿易公開ノ利益明白ナリシカハ千八百三十三年商會ノ特許期限經過セシ後貿易獨占權ヲ放棄セシメ唯タ政治上主權ヲ有セシムルニ止メタリ千八百五十七年土人ノ暴動アリ商會ノ力能ク之ヲ制スル能ハサリシヲ以テいぎりす政府自ラ之ヲ鎭壓シ、翌年十一月一日いんどノ主權ヲ收メ英國女王ハいんど皇帝ノ尊號ヲ併有スルコトトナレリ

第九章　南北あめりかノ發展

發見時代ハ實ニ、いすぱにや極盛ノ時代ニシテちやーれす五世ハどいつ帝國、低地諸邦ぶるごんぢー(Burgundy)しゝりや(Sicily)めきしこ中米南米ヲ併セ領シふいりつぴん群島ヲ領スルニ至リシカ其新領土ノ經營ニ於テハ一ニ金銀ヲ得テ母國ヲ富マスヲ目的トシ母國ノ天產物及ヒ製造品ノ販路ヲ開カンカ爲ノ植民地ノ殖產興業ヲ阻害セシカ故ニ植民國ニ於テモ一時ニ多額ノ金銀流入セシヲ以テ人民奢侈ヲ極メ又南方ノ氣候溫駸ナル地ニ住セシモノハ漸ク怠惰放逸ニ流レタリ加之有爲ノ人物ハ多ク新發

見地ニ向ヒシ爲メいすぱにや人ハ漸ク衰運ニ向ヒ且ツふいりつぷ二世きりすと敎ノ保護者ヲ以テ自ラ任シ新敎ヲ防止シ宗敎裁判所ノ權能ヲ濫用シテ無辜ノゆだや人及ヒもろ人(Moors)ヲ放逐セシ結果ハ工藝並ニ商業ニ熟達セシモノヲ失ヒ大ニ商工業ノ衰微ヲ來セリ、

右ノ如クいすぱにや本國ニ於ケル商工業ハ衰頽シ一時世界ニ有名ナリシ絹及ヒ革ノ製造モ滅少シ輸出品ハ單ニ羊毛、葡萄酒、油、菓實等ノ農產物ニ限ラルヽニ至レリ、

めきしこ及ヒ南米ノ植民地ハ母國ノ植民政策右ノ如クナリシカ故ニ漸ク發達スルト共ニ母國ノ治下ニ在ルヲ好マス北米合衆國獨立ノ業成レルヲ見テ彌々獨立ノ希望ヲ强クシ、あるぜんちんハ千八百十六年、ころんびやハ千八百二十年、めきしこハ千八百二十二年、ぺるー及ヒ中央あめりかハ千八百二十四年、ちりーハ千八百二十六年、べねずえらハ千八百三十一年ニ母國ノ軛ヲ脫シテ共和國トナレリ、爾來農工商業漸次興隆シてこあ(Cocoa)、藍、烟草、甘蔗ノ產額增加シ、牧畜奬勵ノ結果トシテ牛羊豚羊毛及ヒ生皮ノ輸出多クナレリ、

ぶらじる(Brazil)ハぽるとがる人ノ始メテ發見セシ地ニシテとるでしりやす(Tor-desillas)ノ協約ニヨリぽるとがるノ領域ト決セシカ、いすぱにや人ノあるぜんちんニ勢力ヲ扶植セシ結果トシテ此地方モ亦其ノ勢力範圍ニ歸スルノ恐レアリシヲ以テ千五百三十年ぽるとがる王じよん三世(John III)四百ノ兵士ヲ五隻ノ船ニ乘組マシメテ此地方ニ派遣セリ、之ヲ率キシハまるちんあるふぉんそでーざ(Martin Alfonso de Sousa)ニシテぶらじるニ着スルヤ自ラ其沿岸ヲ探檢シ且ツ其部下ヲシテあまぞん河口(Amazon)ノ探檢ヲナサシメせんとびんせんと(St. Vincent)ノ市ヲ建テタリ、是レ此地方ニ於ケル最初ノぽるとがる植民地ナリキ、千五百三十二年ぽるとがる王ハ葡領あめりか即チぶらじる地方ヲ數多ノ管區ニ分テリ、各管區ハ皆海岸ニ沿ヒ各々其司令官ヲ戴ケリ其ノ中最モ繁昌セシハせんとびんせんとナリキ、千五百五十八年ふらんすノ新敎徒此地ニ遠征隊ヲ派シりをでじやねいろ(Rio de Juneiro)ノ河口ニ上陸シテ植民セシカ、葡人之ヲ襲ヒテ千五百六十七年終ニ歐洲ニ歸航セシメタリ、此ノ如クシテ海岸地方ハ漸ク葡人ノ勢力範圍ニ歸セシカ內地ノ征服ハ更ニ長日月ヲ要セリ、而シテ初メ十二管區

ニ分チシヲ千五百七十三年ニハ二ニ減シ、千五百七十七年ニハ更ニ一トナシ、都ヲりおてじやねいろニ定メタリ、千六百四十年ばるとがるかいすばにやヨリ獨立セシ後大ニ此地方ノ開拓ニ意ヲ用ヒタレハ產業大ニ興リ甘蔗廣ク耕作セラレ金及ヒ金剛石多額ニ產シ蘇木藥種及ヒ皮革ト共ニ盛ニ外國ニ輸出セラルヽニ至レリ、

ふろりだ地方ニいすぱにや人カ探檢隊ヲ出セシコトハ前ニ述ヘシカ北あめりか開拓ノ率先者ハふらんすノ航海士かるちえー(Jacques Cartier)ニシテ千五百三十四年始メテ北米ニ航シにゆーふあうんどらんど(New Foundland)ノ西岸ニ着シ翌年せんとろーれんす(St. Lawrence)灣ニ入リ同名ノ河ヲ上リテもんとりおー る(Montreal)ニ到リ、千五百四十年ニハ更ニ其上流ヲ探檢シテ終ニかなだ地方ニふらんすノ植民地ヲ置キ之ヲ新ふらんすト稱スルニ至レリ、次イテ佛人ハ湖水地方ニ進ミ千六百七十三年みしゝつぴ河(Missippi)ヲ發見シ之ヲ下リテ海ニ到リ、其兩岸ヲ占領シ、國王るい十四世ノ名ニ因ミるいじやな(Louisiana)ト稱ヘタリ(一六八二年)、

いぎりす人ハあめりかニ其力ヲ用ヒント欲シ第十六世紀ノ後半ニ西北ノ航路ヲ取リテ屢艦隊ヲ東方ニ派遣セシコトアリ、千五百八十年末ふらんしす、どれーく(Francis Drake)三年餘ノ日月ヲ費シ世界ヲ周航シテ無事ニ歸國シ、千五百八十四年ニハさー、うおーたー、ろーりー(Sir Walter Raleigh)ゑりざべす(Queen Elzabeth)ノ特許ヲ得テあめりかニ航シ、未タ基督教國ニ屬セサル土地ヲ占領セント欲シ終ニふろりだ(Florida)ノ北岸ヲ探檢シテ歸國セリ、其翌年ろーりーノ部下相謀リテ此地ニ百八十人ノ植民ヲ置カントセシカ土人ノ反抗ニヨリテ失敗ニ歸セリ然レトモあめりか植民ノ計畫ハ實ニ此擧ヲ以テ嚆失トス、降リテ千六百六年ぜーむす一世(James I)ノ許可ニヨリろんどん、こむぱにー(London Company)及ヒぷりもす、こんぱにー(Plymouth Company)ノ二植民會社設立セラレテ一ハ南ばーじにや(South Virginia)ノ植民ニ從事シテヨリ、米國ノ植民事業ハ次第ニ進歩シ、千六百二十年清敎徒ノ一派ナルぴるぐりむ、ふあざーす(Pilgrim fathers)等英國ニ於テ信敎ノ自由ヲ得サルカ爲メニーふらわー號(the Mayflower)ニテぷりもすヲ發シ今ノにゆー、いんぐらんど(New England)ノぷりも

ス(Plymouth)ニ植民シ、千六百三十年ニハまさちゅせつつ(Massachusetts)ノちゃーるすたうん(Charlestown)、翌千六百三十一年ニハにゅーはんぷしゃー(New Hampshire)、千六百三十六年ニハこんねちかつと(Connecticut)、千六百三十七年ニハ南北かろりな(North Carolina, South Carolina)、千六百六十四年ニハにゅーよーく(New York)にゅーじるしー(New Jersey)、てらうえあー(Delaware)、千六百八十三年ニハぺんしるばにや(Pennsylvania)、千七百三十三年ニハじよるじや(Georgia)等ノ植民地出來此等諸地ニ於ケル英國植民ノ數ハ忽チ激増シ千六百八十八年ニハ二十萬人餘ニ過キサリシモノ千七百十四年ニハ三十七萬五千餘ニ上リ千七百五十六年ニハ百三十萬ニ達セリト云フ、而シテ此等ノ植民地ヨリハ煙草、米、穀類、生皮、毛皮、魚類等ヲ其本國ニ輸出シ其額モ漸次増加セリ、

いぎりすノ植民地盛大ニ赴ケルニ從ヒテふらんすノ植民地ニハ要塞ノ設備軍隊ノ配置整頓セシヲ以テいぎりす人ニ取リてハ甚タ強敵タリシカふらんすノ植民ノ數甚タ尠ナク千七百五十七年頃英人ノ百三十萬ニ及ヒシニ當リ僅ニ六萬ヲ有スルニ過キス、結局英人ハ次第ニ勢力ヲ加ヘタリ、七年戰爭(千七百五十六年乃至千七百六十三年)中ハ兩國ノ競爭ハ益々其度ヲ高メ千七百五十八年ニハ英人おはいお(Ohio)河畔ノちゆけーぬ(Duquesne)砲臺ヲ占領シ、千七百五十九年ニハけべつく(Quebec)千七百六十年ニハもんとりおーる(Montreal)ヲ攻取シ千七百六十三年ノぱり條約ニヨリテるいじやな州ヲ除キ北あめりかノ舊ふらんす領ハ悉ク英人ノ手ニ歸セリ、同時ニふろりだ其他みししぴー河東ノいすぱにや領ノ割讓ヲ受ケタリ、

おらんだカあめりかニ着目セシハ其發見後百年頃ノコトニシテ初メハ其國力強カラサリシ爲メいすぱにやニ憚リテ大ニ力ヲ用フルコトナカリシカ英人ヘんりー、ほどそん(Henry Hudson)おらんだ東いんど商會ノ爲メニ北米ニ航シ千六百九年ほどそん河ヲ發見セシ後引續キ此地方ニ航シ千六百十三年ニハまんはたん島(Manhattan Isd.)ニ貿易根據地ヲ置キ又南米きやな(Guiana)ニ植民地ヲ開キ千六百十四年ニハ低地新聯合會社(United New Netherlands Company)ヲ設立シテあめりかノ植民貿易事業ニ當ラシメタリ、千六百二十一年前會社ノ特許滿期ニ及

ヒおらんだ西いんど商會(Dutch West India Company)代リテ起リまんはたん島ノ
小植民地大ニ發達シテ新あむすてるだむ(New Amsterdam)ノ稱ヲ得之ヲ中心ト
シテ漸次こんねちかつと、にゆーぜるしー、てらうえあー、ぺんしるばにや諸州ニ
植民シテ新ねざらんどト稱シ太守ヲ置キテ其治ニ當ラシメタリ、又西葡兩國ト
海上ニ爭ヒ其船舶ヲ捕獲セシコト勘カラス、南米きゅらそお(Curaçao)島ヲ占領シ
ぷらじるニモ植民ヲ置ケリ然レトモぽるとがる人力ヲ極メテ之ニ抵抗シ漸次
之ヲ逐ヒテ千六百五十四年全クぶらじるノ地ヲ撤去セシメタリ、北米ニ於テモ
いぎりす移民ノ勢盛ナルニ從ツテ新ねざらんど植民地ハ之ニ壓セラレ千六百
六十四年末ニ新あむすてるだむヲいぎりすニ讓與セリ、今日ノにゆー、よーく即
チ是ナリ西いんど商會モ漸ク利益勘カリシカハ十八世紀ノ中頃おらんだ政府
ハ會社ノ特權ヲ奪ヒ何人モ自由ニ西いんどニ通商シ得ルコトヽシ千七百九十
年ニハ會社ハ終ニ解散セリ、

北あめりかニ於ケルいぎりすノ勢力ハ右ニ述フルカ如ク漸次增大シおらんだ、
ふらんす諸植民地ヲ壓倒スルニ至リシカ、當時いぎりすノ植民政策ハ專ラ母國

ノ利益ヲ謀ルニアリ千六百五十一年ニハ航海法(Navigation Act)ヲ發布シテ植民
地ノ輸出入カ英船ニヨラサル可ラサルコトヲ規定シ、千六百六十年ニハ又植民
地ノ產物ハ先ツ英國ニ送リ然ル後英國ノ商船ニヨリテ各需用地ヘ送ラサルヘ
カラサルコトヲ定メ砂糖、糖蜜、生姜、煙草、珈琲、棉花、藍、鐵、獸皮、穀類等ノ重要輸出品
ニ對シテハ特ニ此法律ヲ勵行セリ、而シテ千六百六十三年ノ法律ニヨリ植民地
ニ於テ需用スル外國品ハ英國ノ港灣ニ於テ英船ニ積載セルモノナラサルヘカ
ラサルコトヲ命セリ、此ノ如ク輸出入共ニ母國ノ媒介ニヨラサルヘカラスシテ
植民地ハ全ク母國ノ利益ヲ增進スル爲メニ存スルノ狀ヲ呈セシカ英國ハ尙ホ
之ヲ以テ足レリトセス、植民地ニ於テ製造業ノ起ラントセルニ及ヒ千七百十九
年毛織物製造ヲ禁止シ千七百五十年ニハ又製鐵ヲ禁セリ、此等法律ノ爲メ大ニ
不便ヲ感セシ移民ハ千七百六十五年英國政府カ七年戰爭ノ軍費ヲ辨センカ爲
メあめりか植民地ニ於テ印紙稅ヲ徵シ次イテ茶ガらす、ぺんきニ稅ヲ課スルニ
及ヒテ大ニ激昂シ千七百七十六年七月四日終ニ獨立ノ宣言ヲ發シ連年戰鬪セ
シ結果千七百八十三年英國ト媾和シ獨立ヲ認メラルヽニ至レリ、而シテ千七百

八十七年七州ノ委員ふいらでるふぃや(Philadelphia)ニ會シテ憲法ヲ制定シわしんとん(George Washington)ヲ大統領ニ擧ケ合衆國繁榮ノ基ヲ据エタリ、

第十章　第十八九世紀歐洲貿易ノ狀況

あめりか植民地獨立ノ頃ヨリ歐洲ニ於テハ政治上幷ニ社會上ノ改革續々起リ又數多ノ新發明アリテ製造交通運輸ノ上ニ至大ノ變動ヲ生シ各國商業上影響スル所多カリキ、

新發明中第一ニ擧クヘキハわっと(James Watt.)(一七三六―一八一九)ノ蒸滊機關ニシテ初メ專ラ鑛山ノ用ニ供セラレシカ千七百八十五年英國のっちんがむ州(Nottinghamshire)ニ於テ始メテ之ヲ綿糸紡績ニ應用セリ、是ヨリ先千七百七十年ニハはるぐりーぶ(Hargreaves、一七三〇―一七七八)多數ノ錘ヲ有スル紡績器械すぴんにんぐぜんにー(Spinning Jenny)ヲ發明シ、千七百七十一年ニハ新發明ノ機械ヲ用ヒテ水力ヲ紡績ニ利用セリ、わっとノ蒸滊機關ヲ紡績ニ應用セシ結果綿ノ貿易額爾後十五年間ニ三倍ノ增加ヲ見ルニ至レリ、紡績ニ蒸滊力ヲ應用スルノ一事ハ又石炭ノ需用ヲ增シ隨テ其採掘盛ニ行ハレ石炭ノ採掘額多キニ至リテ之ヲ鎔鑛ニ用フルコトヲ得依テ製鐵ノ事業盛ニ起リ其結果トシテ機械製造ノ材料ヲ增シ各種工業勃興ノ基ヲ置ケリ、

之ニ次イテ改良セラレタルハ交通機關ニシテ商業取引ハ之カ爲メニ敏活トナレリ、是ヨリ先キ中世紀ノ頃ニアリテハ商品ノ運搬ハ主トシテ馬又ハ荷車ニヨリシカ千七百六十一年英國まんちえすたー(Manchester)うーすれー(Worsley)間ニぶりっぢわうたー(Bridgewater)運河開鑿セラレ、次イテ國内各所ニ運河ノ開通ヲ見河川ト相待チテ運輸交通上大ナル利便ヲ與ヘタリ、

此頃ニ至リテいすぱにやハ前ニ述ヘタル如ク國ノ衰微ニ伴ヒテ商業上ノ勢力ヲ失墜シといつハ國内大ニ亂レテ未タ商業界ニ羽翼ヲ伸ハスニ至ラス、おらんだモ亦英國ノ航海法(Navigation Act)發布ノ爲メニ大打撃ヲ被リテ昔日ノ隆盛ノ影ヲ留メサルニ至リシカ、獨リ英國ハ商業貿易ノ發展著ルシク七年戰爭ノ結果あめりか及ヒいんどニ於テふらんすヲ破リ東西ノ商權ヲ獨占スルノ有樣ニシテ千七百六十三年ヨリ千七百七十三年ニ至ル十年間植民地ニ對スル輸出額ハ、

平均二百萬磅ナリシカ千七百九十二年ニハ倍加シテ四百萬磅ニ上レリ、西いんど地方トノ貿易モ亦殆ント同樣ノ進歩ヲナシ彼地方ニ輸入スル額二百萬磅ニ超エ此所ヨリ輸出スル所ノらむ酒(Rum)砂糖、綿、まほがにー材(Mahogany)等ノ價額四百萬磅ニ上リ北米及ヒ南海地方ヨリスル鯨鱈等ノ輸入モ亦增加セリ、

佛國ノ革命起ルニ及ヒテ英國ノ商業ハ大頓挫ヲ來タシ次イテ千七百九十三年佛國ト戰端ヲ開キシ結果商工業ノ沈衰十餘年ニ及ヒシノミナラスなぽれおん(Napoleon I)政權ヲ握ルニ至リ千八百六年十一月二十一日英國封鎖ノ嚴令ヲ下シ英國トノ通信交通ヲ禁シ且ツ佛國及ヒ其同盟國ノ占領セル地方在留ノ英人ハ悉ク之ヲ捕虜トシ其財產ヲ沒收シ英國貨物ノ貿易ヲ禁シ英國又ハ其植民地ヨリ來ル船舶ノ佛領內ノ港灣ニ出入スルコトヲ嚴禁セリ、此禁令ノ目的トスル所ハ英國ノ商業ヲ破リ以テ報復ヲ計ラントスルニアリシカハ英國ハ之ニ應シテ千八百七年一月及ヒ十一月令ヲ發シテ中立國船舶ノ佛國又ハ其與國ノ港灣ニ出入スルヲ禁シ英佛相爭ヒテ中立國船舶ノ拿捕ニ從事セリ、是カ爲メ世界ノ商業ハ大ナル迫害ヲ受ケタリ、

佛國政府ハ英國ノ報復手段ニ出ツルヲ見ルヤ直チニ佛國內ハ勿論獨蘭伊西其他佛兵ノ占領セシ地方ニ於ケル英國貨物ノ燒棄ヲ命シ大ニ英國ヲ苦シメントセシカ英國ハ尙ホ北米合衆國北歐諸國及ヒ東西いんどトノ貿易ヲ繼續シ加フルニふらんすノ同盟國中ニモ全ク英國ノ貨物ノ排斥ヲ斷行スル能ハス或ハどいつヨリ或ハべにすヨリ間接ニ其供給ヲ受ケもすこー(Moscow)侵入ノ際ハ佛兵モ皆英國よーく州(Yorkshire)製造ノ羊毛衣ヲ着セシ程ナリシカ故ニ英國ノ貿易ハ依然トシテ衰微ノ徵ナク千七百九十三年ニハ輸出總額二千萬磅ニ過キサリシモノ千八百年ニハ三千四百萬磅千八百十五年ニハ五千八百萬磅ニ上リシト云フ、

英國ハ又佛國及ヒ其同盟國ト戰鬪中ニモ新ニぶらじる及ヒあめりかニ在ルいすぱにやノ諸植民地トノ貿易ヲ開始シ千七百九十三年ニハ佛國ヨリ西いんどノとばこ島(Tobago)及ヒ東いんどノ諸植民地ヲ奪ヒ千七百九十六年ニハせーろん(Ceylon)千八百六年ニハ喜望峰ヲおらんだヨリ奪ヒ領土ヲ擴張セシト共ニ其商業上ノ發達モ亦大ナリキ、

たすまにや(Tasmania)及とゐーすとらりや(Australia)ノモト蘭人ノ發見セシ所ナルカ千七百六十九年英人きやぷてん、くつく(Captain Cook)此地方ヲ航海シテにゆーじーらんど(New Zealand)及とにゆー、さうすうえーるす(New South Wales)ニ達シ其見聞ニ據ッテ進言スル所アリキ、千七百八十八年ニ至リ英國ハ罪人ヲにゆー、さうすうえーるすニ移シ此所ニしどにー(Sidney)市ヲ開ケリ而シテ盛ニ羊ノ飼養ヲ奬勵セシ結果羊毛ハ其重要輸出品トナリ十四年後ニハ羊毛ノ輸出額十七萬五千斤ニ達シ飼養セル羊ノ數十二萬頭ニ上レリ、千八百二十四年ニハくいんすらんど(Queensland)千八百二十九年ニハ西ゐーすとらりや(West Australia)千八百四十年ニハにゆーじーらんど(South Australia)千八百五十六年ニハにゆーじーらんどニ植民セリ、右ノ如ク濠洲ノ開拓セラルヽト共ニ英國ノ商業ハ彌々發達セリ』

なばれおん滅亡後千八百二十年ろんどんノ商人等從來ノ保護政策ヲ打破シテ自由貿易策ヲ取ランコトヲ政府ニ請願シ次イテえでんばろー商業會議所(Edinburgh Chamber of Commerce)モ亦同樣ノ建白ヲナセリ、國會ハ委員ヲ選ヒテ其可否ヲ調査セシ結果自由貿易策ヲ採用スルニ決シ次第ニ保護法律ノ廢止ヲ見ルニ至リシカ眞ニ自由貿易政策ヲ取リシハさーろばーとぴーる(Sir Robert Peel)ノ內閣ニシテ千八百四十六年穀物稅廢止法案ノ提出アリ、次イテ千八百四十九年同稅及セ航海法ノ全廢ヲ可決シ自由貿易主義ノ實行ヲ見ルニ至レリ、

是ヨリ先キ千八百十四年ニ英人じよーじ、すちぶんそん(George Stephenson)蒸汽機鑵ヲ發明シ之ヲ改良シテ陸上運搬ニ應用シ得ルニ至ラシメ千八百二十五年ニ至リ始メテ汽車鐵道敷設セラレ千八百三十年ニハまんちえすたー、りばぷーる(Liverpool)間ノ鐵道開通セリ、米國ニ於テハ千八百三十七年ニ至リ鐵道開通セリ、

蒸汽機關ヲ航海ニ應用スルコトハ第十七世紀末ヨリ英佛米諸邦ニ實驗ヲ重ネタル所ナリシカ始メテ大船ニ應用セシハ千八百七年ふるとん(Robert Fulton)一七六五―一八一五カ建造セシ船ヲほどそん河ニ試運轉セシメシ時ニアリ而シテ千八百三十八年ニハこるく(Cork)發ノしりうす(Sirius)及とぶりすとる發ノぐれーとうえすたーん(Great Western)ノ兩汽船英米間ノ航海ヲ遂ケシカハ遠距離航海ノ可能ナルコトヲ示セシヨリ彌々汽船ノ用盛ニナリ交通ノ便大ニ開ケタ

ヲ、

此顚又電信ノ發明アリ千八百四十六年ニハろんどんニ電信會社設立セラレ電信通信ヲ行ヒ其後米人もーるす(Morse)大ニ之ヲ改良セリ、千八百五十年ニハ最初ノ海底電線英佛間ニ沈設セラレ、歐米間ノ海底電線ハ數回ノ失敗ノ後千八百六十六年ニ成效セリ、而シテ千八百四十年ニハひる(Hill)氏ノ意見ニ基キぺんにーぽすと(Penny Post)制採用セラレ郵便稅額著シク減セラレシ爲メ通信ノ便ヲ增大セリ、此等ノ發明及ヒ改良ハ漸次歐米一般ニ採用セラレ商業上ニ至大ノ便宜ヲ與フルニ至レリ、

ふらんすハ革命前ヨリ國內擾亂セル爲メ商業全ク衰ヘなぽれおんカ英國ヲ困シムル爲メニ發セル令ハ却テふらんすノ航海業ヲ破滅セシメシカ同令ハ又外國品輸入ノ途ヲ斷チ其缺ヲ補フ爲メ國內ノ工業ノ勃興ヲ促シ煙草、蜀黍、甜菜等ノ耕作ヲ盛ナラシムルノ效アリキ、なぽれおん亡ヒ國內鎭定セシ後商業ハ漸次舊態ニ復シ千八百五十八年ヨリ同六十八年ニ至ル十年間ニハ其輸出額七千五百萬磅ヨリ一億三千二百萬磅ニ上レリ、普佛戰爭ハ再ヒ佛國ヲ疲弊セシメシカ

國力ハ戰後驚クヘキ速度ヲ以テ回復シ農工業著シク發達シ葡萄酒、絹纖物、毛纖物、木綿、麻纖物、がらす、磁器等ノ製造盛ナルニ至レリ、而シテ又千八百三十年以後あるぜりや(Algeria)あふりか西岸、とんきん(東京、Tonquin)いんどしな(Indo-China)等ノ外國領土ヲ得まだがすかる(Madagascar)ヲ保護國トナシ貿易ノ範圍隨ツテ擴カレリ

どいつハ英佛兩國相戰ヘルニ乘シテ商業大ニ發達シなぽれおんノ禁令ニヨリ外國品ノ輸入困難トナルニ及ヒばーでん(Baden)つーりんぎや(Thuringia)等ニ烟草ヲ栽培シ、砂糖製造ノ甜菜、珈琲代用ノちこりー(Chicory)等ノ耕作ヲ盛ニシ、麻布、毛纖物、銀、石炭等ヲ多ク輸出セリ、普佛戰爭後絹纖物及ヒ砂糖製造漸ク盛ニナリ航海業亦大ニ發達シはんぶるぐ(Hamburg)ぶれーめん(Bremen)等最モ盛ナル商港トナレリ、

低地諸邦ハ千八百三十年おらんだ、べるじゆむ(Belgium)ノ二國ニ分離シおーすとりや、いたりや其他歐洲諸國ト共ニ漸次なぽれおん戰爭ヨリ普佛戰爭ニ至ルマテ諸戰ノ爲メニ被リタル害ヲ免カレ商工業發達スルニ至レリ、

近世ニ於テ大ニ商工業ノ發達ヲ促シタルモノヽ一ハ萬國博覽會ナリ、抑モ博覽會ハ中世時代ノ市ノ制度ノ進歩整頓シタルモノニシテ內國博覽會ノ催ハ第十八世紀ニ始レリふらんすニ於テハ英國ノ工業ト競爭ヲ奬勵スル爲メ千七百九十八年內國博覽會ヲ開キ英國ノ工業撲滅ノ效ヲ奏セシモノニ金牌ノ賞與ヲナセリ第一回萬國博覽會ノ創意者ハ實ニ英國ノ皇婿あるべると親王ニシテろんどん市有力者ノ贊助ヲ得千八百五十一年五月同市はいどぱーく(Hyde Park)ニ之ヲ開ケリ、初メ之ニ反對スルモノ多カリシカ其成效ヲ見テ續々歐米各國ニ開設スルニ至リ工業ノ競爭ヲ起シ進歩開發ヲ促シタリ

千八百六十九年十一月十七日すゑず運河ノ開通ハ世界ノ商業上ニ大ナル影響ヲ及ホセリ、抑モ地中海ト紅海トノ間ニハ基督紀元前六百年頃ヨリ水路通シアリシカ同紀元八百年代ニ至リ此路ニヨル船ノ通航止ミ爾來水道モ乾燥シ沙漠ト變シ終レリ、なぽれおん一世えじぷと遠征後此通路ヲ再ヒ開ク計畫ヲナセシ由ナルカ終ニ實行スルニ至ラスシテ止メリ、千八百四十九年ヨリ佛人ふえるぢなんど、れせつぷ(Ferdinand Lesseps)此事業ニ注目シ同五十四年ニ至リテ畧成案ヲ得えじぷと總督ノ委托ニヨリすゑず運河會社ヲ組織シ資本金ノ一半ハ總督之ヲ支出シ一半ハ佛國其他歐洲諸國ニ於テ募集セリ、而シテ千八百五十五年えじぷとニ於テ萬國專門家ノ會議ヲ開キテ工事ノ方法ヲ論究シ千八百六十年末ヨリ彌工事ニ着手シ此時ニ至リテ落成セシモノナリ、此間種々ノ困難アリシカ能ク之ヲ排シテ成效ニ至ラシメタルハ多クれせつぷノ盡力ニヨレリ、此運河ハ地中海ノぽるとさいど(Port Saïd)ニ始リ紅海ノすゑず(Suez)ニ終リ長サ八十七哩アリ、內六十六哩ハ堀割、二十一哩ハ湖水ナリ、工事費總額ハ二千萬磅ナリシト云フ初メ水深ハ二十六呎、河底ノ幅七十二呎、水面ノ廣サ百九十七呎乃至三百二十八呎ナリシカ大船航行ノ便ヲ開ク爲メ千八百九十八年ニ至リテ深サ二十七呎十吋、幅百二十一呎四吋ニ增シ爾來浚渫ヲ續ケ深サハ三十一呎ニ、幅ハ水深二十六呎三吋ノ處ニテ百十三呎乃至二百六十二呎ニ至ラシメ、又中途十數个所ノ幅廣クシテ二船ノ並航シ得ヘキ所ヲ設ケタリ、而シテ通航船ノ吃水線ノ深サモ二十五呎七吋ニ增加セリ、

運河ノ開通ト同シ頃ニ螺旋狀推進機(Twin Screw)ヲ汽船ニ用ヒテ遠洋ニ航海ス

ルニ至リシカハ運河ヲ通過スルニ當リテモ帆船ノ如ク風ノ爲メ岸ニ觸レ淺瀨ニ乘リ上ケ又永ク風待スル必要ナク又從來ノ蒸汽輪船ノ幅廣キノ不利モナク盛ニ運河ヲ利用スルコトヲ得シメ東西交通ノ路トシテ從前專ラ用ヒラレシあふりか廻航路ニ代ハルニ至レリ、此ニヨリテ西歐トいんどトノ間ヲ航路三千七百餘哩航海日數三十五日ヲ減スルコトヲ得東西ノ交通ヲ速ニシ歐洲ノ東洋貿易並ニ植民地ノ施設上大ナル便宜ヲ與ヘ又其發達ヲ促セリ、地中海岸ノ諸港モ亦之カ爲メ大ニ發達シ就中ねーぷるすゼのあ、まるせーゆノ如キ今日ノ大繁昌ヲ見ルニ至リシハ全ク運河開通ノ結果ナリ、

銀行業カ中世期ニいたりや地方ニ於テ頗ル發達セシコトハ前ニ既ニ述ヘタルカ第十八世紀ニ至リテハ更ニ著シキ進歩ヲナシ商業上ニ非常ナル便益ヲ與ヘタリ今之ヲ詳說セサレトモ左ニ歐洲ノ最モ重要ナル銀行ノ設立時期ヲ揭クヘシ

あむすてるだむ銀行 (Bank of Amsterdam) 一六〇九年

はんぶるひ銀行 (Bank of Hamburg) 一六一九年

いんぐらんど銀行 (Bank of England) 一六九四年

ふらんす銀行 (Bank of France) 一八〇〇年

どいつノ帝國銀行 (Imperial Bank) 一八七五年

此時代ニハ又商工業界ニ於テ在來ノ制度ヲ改廢シ新制度ヲ設ケタルカ爲メ商業ノ繁昌ヲ來スニ至リシコト尠カラス、從前商工組合 (Trades-Unions) ヲ設ケ組合員ノ利益ヲ保護セント欲スル結果自由競爭ヲ排斥シ人爲的ニ不當ナル高價ヲ維持セントセシヲ改メ何人モ隨意ニ自ラ適シタリト考フル職業ヲ選フコトヲ得シムルニ至リシコトノ如キ又消費組合、生產組合、信用組合等ノ共同組合 (Co-perative Societies) ヲ設ケ商工業者ノ其義ニ安ンスルコトヲ得セシメタルカ如キハ其例ナリ

第二十世紀以後ニ於テ商業上ニ大ナル影響ヲ及ホスヘキハ通信交通ノ便彌々多キ事ニシテ無線電信無線電話ノ發明ノ如キ空中飛行機ノ發明ノ如キ實地應用ノ度ヲ增スニ至ラハばなま運河ノ開通ト共ニ世界ノ商業ニ一新紀元ヲ開クヘシ

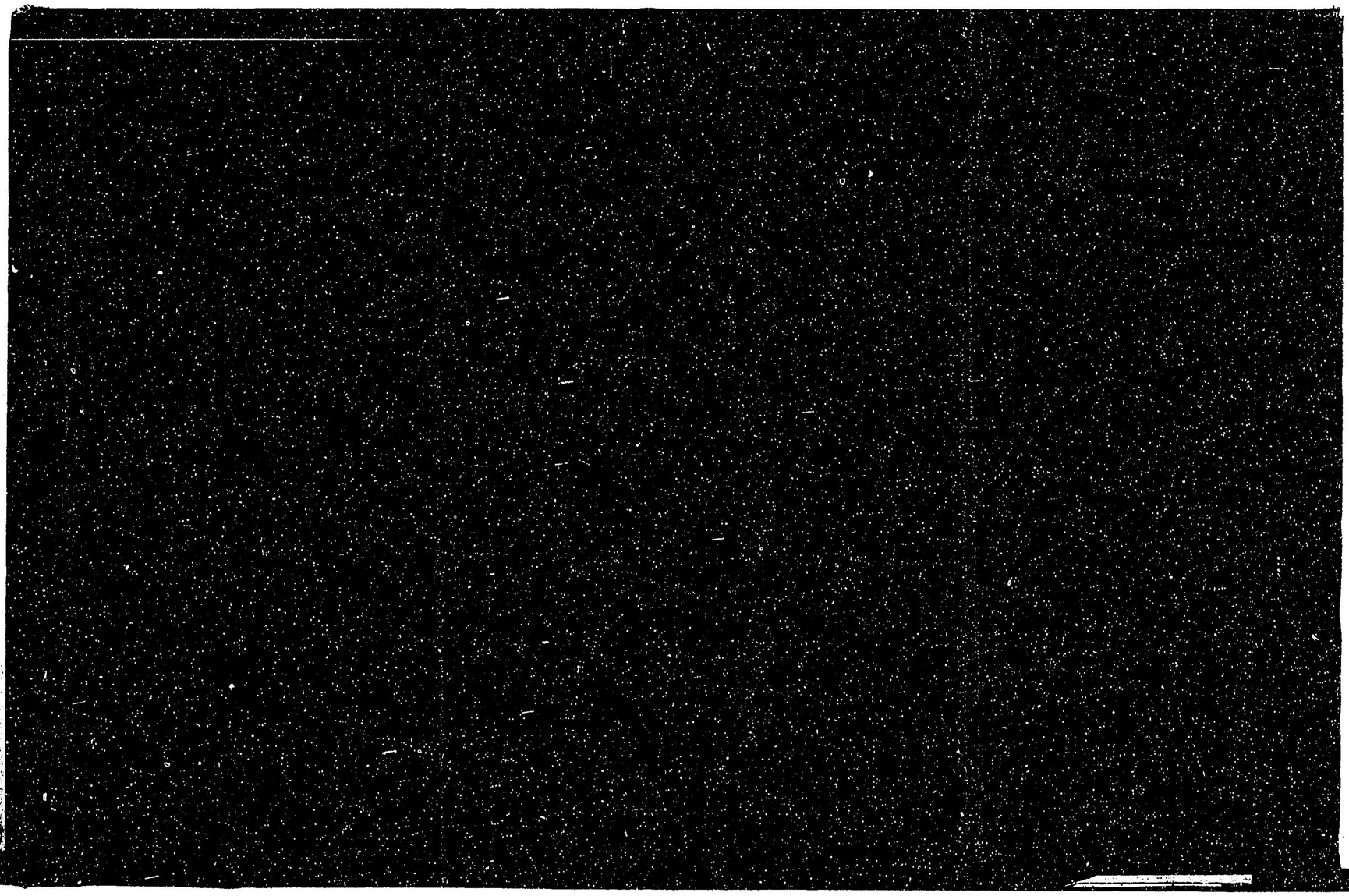
抑モ米國大陸ノ狹所ヲ通過シテ太平洋ト太西洋トヲ聯結セシムヘキコトハ早クヨリ人ノ說キシ所ニシテ北米合衆國ハ特ニ其必要ヲ感シ千八百年代ノ後半ヨリ此問題ヲ講究シ千八百七十三年ニにからぐわ(Nicaragua)運河及ヒだりえん(Darien)運河ノ調査ヲナサシメ千八百九十年同九十九年又同種ノ委員ヲ擧ケタリ

是ヨリ先キ千八百七十九年ぱりすニ萬國運河會議ヲ開キれせつぷ主トシテぱなま運河開鑿ノ議ヲ稱ヘ終ニ之ヲ決シ翌年運河會社ヲ創定シころん(Colon)ぱなま(Panama)間ニ八ケ年繼續ニテ四十七哩ノ運河ヲ掘ルコトヽシ實測ノ後之ニ着手セシカ工事案外ニ困難ニシテ支出豫算ニ超過シ千八百八十九年工事ヲ中止シ會社ヲ解散スルニ至レリ千八百九十年ころんびや政府ヨリ完成期ニ十年ノ延期ヲ得清算人ハ新會社ヲ起シテ工事ヲ繼續スルコトヲ圖レリ千八百九十四年始メテ新會社成立セリ此會社モ亦工事ヲ完成スルコト能ハス北米合衆國政府ニ之カ賣渡ヲ提議セリ合衆國ニ於テ設ケタル千八百九十九年ノ委員ノ報告ニヨレハ十年計畫ヲ以テぐれーたうん(Greytown)ヨリにからぐわ湖ヲ經ふりと(Brito)ニ至ル百七十八哩ノ運河ヲ開キ深サ三十五呎底幅百五十呎トスルトキハ經費ハ二億五十四萬弗ヲ要シぱなま運河ヨリ費額多キコト五千八百萬弗餘ナレトモ工事ハ却テ容易ナルヘシトノ事ナリシカ右提議ニ接スルニ及ヒ更ニ調査ヲ遂ケ之ヲ買收スルコトニ決シセシカ故ニ千九百三年十一月ぱなま運河ヲ助ケテ獨立セシメ之ト運河敷地並ニ兩岸五哩ノ租借ヲ締約シ千九百四年二月條約ノ批準ヲ待チテ千萬弗ヲ拂込ミ九年ノ後ニ至リテ毎年二十五萬弗ヲ拂込ムコトヽナセリ

右運河ハれせつぷノ計畫ニテハ水深二十九呎半底幅七十二呎ノ筈ナリシカ後ニ幅ヲ七十八呎ニ改メ兩岸ヨリ堰各四ツヲ設ケテ中央ノ高キ水ト兩太洋ノ水トノ水平ヲ得ル計畫トナセリ完成ノ曉ニ至ラハすえず運河ニ劣ラサル便益ヲ世ニ與フヘキコト疑ナシ

西洋商業史

畢



043539-000-0

678.23-M936s

西洋商業史

村上 直次郎／述

〔刊年不明〕

BDL-0529